

平成30年度
男女共同参画に関する市民意識調査

平成 31 年 1 月

長崎市市民生活部
人権男女共同参画室

目 次

第1章	調査の概要	1
第2章	調査結果	3
	回収結果	3
	回答者の属性	3
1	男女共同参画社会に関する意識について	6
2	ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について	10
3	家庭生活の中での男女共同参画について	15
4	職業生活の中での男女共同参画について	24
5	地域活動などでの男女共同参画について	26
6	防災対策における男女共同参画について	28
7	男女共同参画を阻害する暴力について	29
8	その他	34
第3章	基礎数値	37
第4章	記述データ	49
	(参考) 調査票	63

第1章 調査の概要

1 調査の目的

長崎市男女共同参画推進条例第16条の規定に基づき、家庭、職場、地域、その他の分野における男女共同参画に関する市民意識調査を行い、その結果を本市の男女共同参画計画の策定や、男女共同参画の推進に関する施策に反映する。

2 調査内容

男女共同参画に関する市民意識調査

3 調査対象

- (1) 母集団 市内に住所を有する年齢「18～19歳」「20代」「30代」「40代」「50代」「60代」「70代以上」の男女
- (2) 標本数 1,500人
- (3) 住民基本台帳からの無作為抽出

4 調査時期

平成30年11月

5 調査方法

郵送による配付・回答

6 調査項目

1 男女共同参画に関する意識について

- (1) 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について
- (2) 社会のあらゆる分野で男女がともに参画していくために必要なこと
- (3) 女性が増えた方がよいと思う職業や役職
- (4) 男女共同参画に関係する用語の認知度

2 ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について

- (5) 家庭生活、仕事、地域活動の優先度
- (6) 女性が職業をもつことについての意見
- (7) 男性の育児休業制度の利用が進まない理由
- (8) 男性が女性と共に家事、子育て、介護、地域活動に参加するために必要なこと

3 家庭生活の中での男女共同参画について

(9) 家庭での役割分担

4 職業生活の中での男女共同参画について

(10) 職場における男女間の待遇の差（有職者）

(11) 性別にかかわらず、各自が能力を発揮して働くために必要なこと

5 地域活動などでの男女共同参画について

(12) 地域活動での現状

(13) 女性が地域活動で役職についたり、意思決定の場へ参画していくために必要なこと

6 防災対策における男女共同参画について

(14) 男女がともに安心・安全な防災体制を整えるために必要なこと

7 男女共同参画を阻害する暴力について

(15) 身近なところでのDVの有無

(16) DVに該当する行為の範囲

(17) DV相談窓口の認知度

(18) 長崎市によるDV防止に関する広報・啓発の認知度

8 その他

(19) 自分の体の性、心の性または性的指向について

(20) 性的少数者の生きづらさを解消するために必要なこと

(21) 行政が男女共同参画社会の実現に向けて取り組むべきこと

(22) 男女共同参画社会を実現するためのアイデアや意見（自由記述）

○回答者の属性

(1) 性別

(2) 年齢（年代区分）

(3) 職業（雇用形態区分）

(4) 既婚・未婚の別

(5) 世帯構成

(6) 子の有無

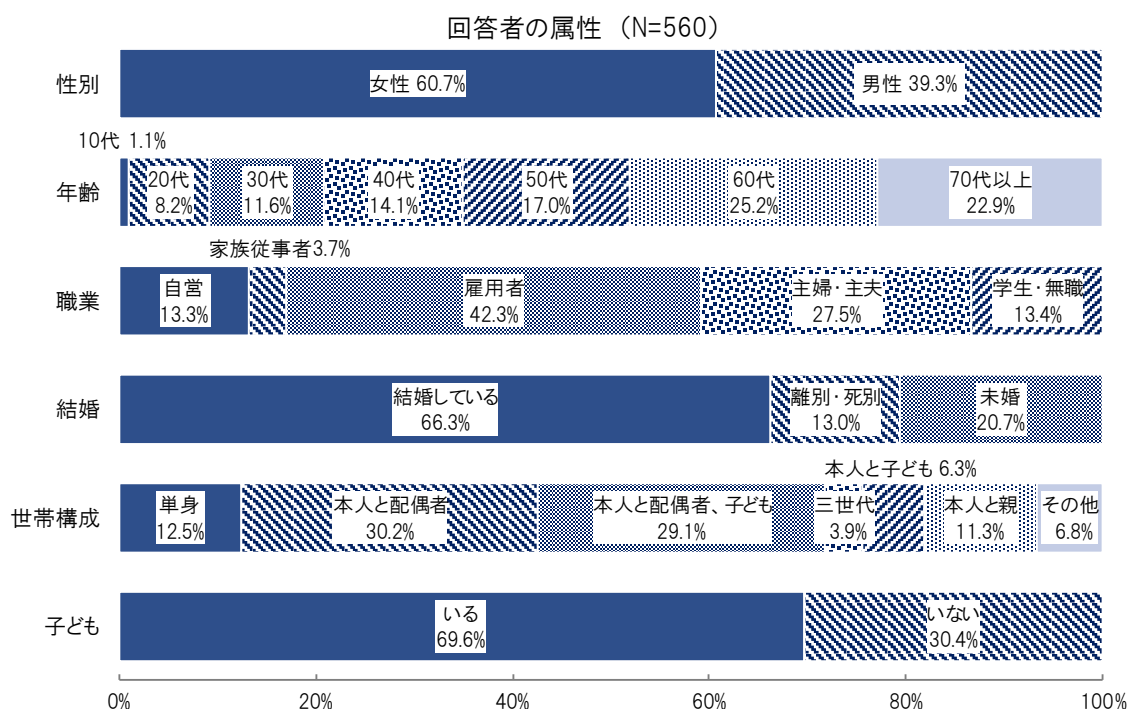
第2章 調査結果

回収結果

- (1) 配布数 1,500件…①
- (2) 回収数 560件…②
- (3) 回収率 37.3%【②／①】 ※前回調査（H26年度）では31.9%
- (4) 集計方法

本書における調査結果の数値は、有効回答票のみの回答率（%）を表記しており、小数点第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記する。このため、単数回答の合計が100.0%とならない場合（99.9%、100.1%）や、1人の回答者が複数回答してもよい質問では、回答率の合計が100%を上回ることがある。

回答者属性



(1) 性別

有効回答者の性別割合は、女性60.7%、男性39.3%である。

回答者の性別		
	人数	割合(%)
女性	340	60.7
男性	220	39.3
計 (N)	560	100.0

(2) 年齢

有効回答者の年齢については、回答者の約半数を60歳以上が占めている。

回答者の年齢		
	人数	割合(%)
18~19歳	6	1.1
20代	46	8.2
30代	65	11.6
40代	79	14.1
50代	95	17.0
60代	141	25.2
70代以上	128	22.9
計(N)	560	100.0

(3) 職業

有効回答者のうち、約6割が有職者、3割弱が主婦・主夫となっている。また、雇用されている人のうち、7割弱が常勤（フルタイム）、約2割がパートタイム勤務となっている。

回答者の職業				回答者の勤務形態（雇用されている人）			
		人数	割合(%)			人数	割合(%)
自営業者 (経営者)	農業、林業、漁業	6	1.1	常勤（フルタイム）	159	67.1	
	商工業、製造業、サービス業	57	10.2	非常勤	8	3.4	
	自由業（開業医、弁護士等）	11	2.0	パートタイム	48	20.3	
家族従事者	農業、林業、漁業	2	0.4	契約社員、派遣社員	12	5.1	
	商工業、製造業、サービス業	16	2.9	計(N)	237	100.0	
	自由業（開業医、弁護士等）	2	0.4				
雇用されている者 (役員を含む)	役員・管理職	20	3.6				
	専門・技術職	87	15.5				
	事務職	56	10.0				
	販売・サービス・保安職	50	8.9				
	農林漁業職	1	0.2				
無職	生産・輸送・建設・労務職	23	4.1				
	主婦・主夫	154	27.5				
	学生	17	3.0				
	その他	58	10.4				
計(N)		560	100.0				

(4) 結婚

有効回答者のうち、2/3は結婚しており、約2割は未婚である。

回答者の結婚		
	人数	割合(%)
結婚している	371	66.3
離別・死別	73	13.0
未婚	116	20.7
計(N)	560	100.0

(5) 世帯構成

有効回答者のうち、「本人と配偶者のみ」と「本人と配偶者、子ども」の世帯構成がそれぞれ3割と最も多い。

	人数	割合(%)
単身世帯	70	12.5
本人と配偶者のみ	169	30.2
本人と配偶者、子ども	163	29.1
本人と配偶者、子ども、父や母 (三世帯世帯)	22	3.9
本人と子ども	35	6.3
本人と親	63	11.3
その他	38	6.8
計 (N)	560	100.0

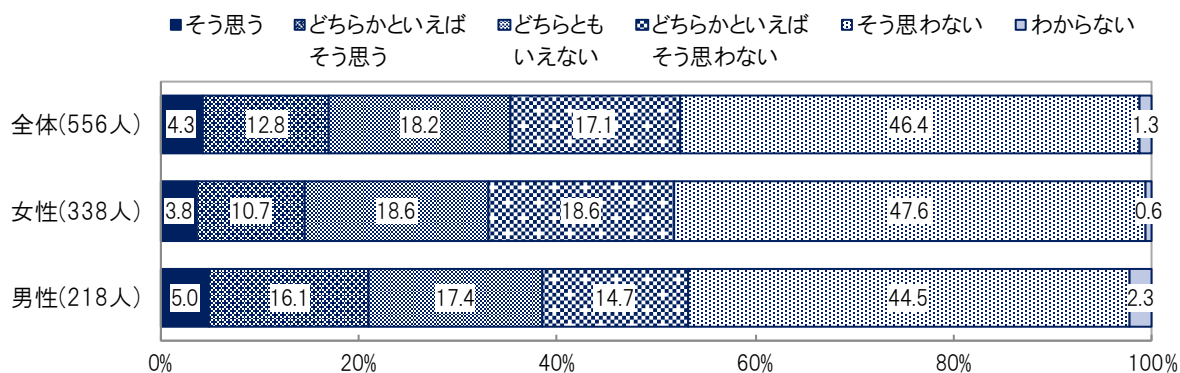
(6) 子どもの有無

有効回答者のうち、子どもがいる人（別居を含む）は7割、子どもがいない人は3割となっている。

	人数	割合(%)
いる	390	69.6
いない	170	30.4
計 (N)	560	100.0

1 男女共同参画に関する意識について

問1 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたはどのように思いますか。



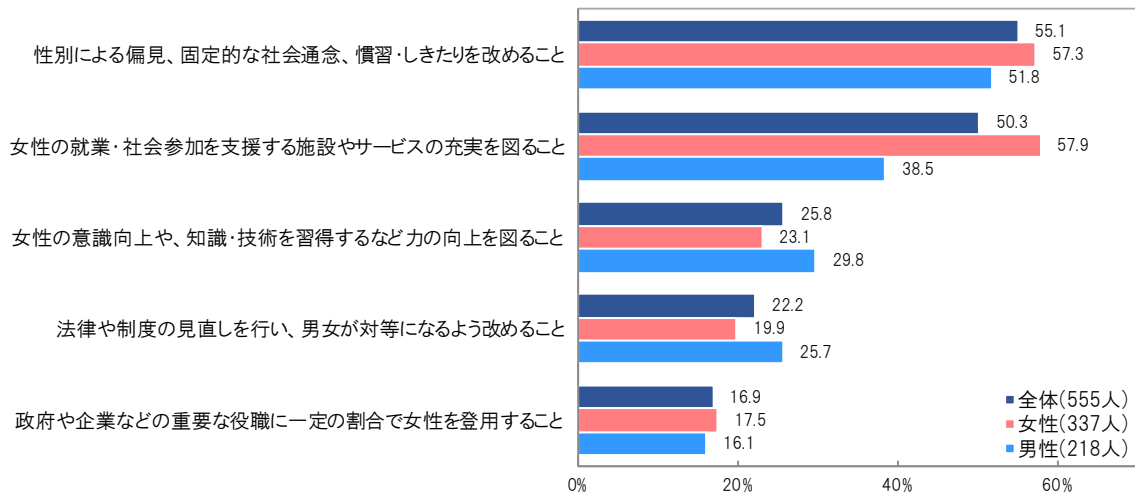
	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらとも いえない	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	わからない
全体(556人)	4.3%	12.8%	18.2%	17.1%	46.4%	1.3%
女性(338人)	3.8%	10.7%	18.6%	18.6%	47.6%	0.6%
男性(218人)	5.0%	16.1%	17.4%	14.7%	44.5%	2.3%
10代(6人)	16.7%	0.0%	16.7%	16.7%	50.0%	0.0%
20代(46人)	0.0%	4.3%	21.7%	19.6%	52.2%	2.2%
30代(65人)	1.5%	15.4%	9.2%	18.5%	53.8%	1.5%
40代(79人)	2.5%	10.1%	19.0%	16.5%	50.6%	1.3%
50代(95人)	3.2%	11.6%	17.9%	16.8%	50.5%	0.0%
60代(141人)	4.3%	13.5%	18.4%	15.6%	46.1%	2.1%
70代以上(124人)	8.9%	16.9%	21.0%	17.7%	34.7%	0.8%

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方については、全体でみると、「そう思わない」と答えた人の割合が46.4%と最も多く、「どちらかといえばそう思わない」と答えた人と合わせると63.5%となっている。

性別でみると、「そう思わない」と答えた人の割合は、『女性』が47.6%、『男性』が44.5%と、女性が男性よりやや高い割合を示している。一方、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と答えた人の割合は、『男性』が21.1%、『女性』は14.5%と、男性が女性より6.6ポイント高い。

年齢別にみると、『50代』以下では「そう思わない」と答えた人の割合が50%以上であるのに対し、『60代』～『70代以上』では、他の年齢層よりやや低い割合を示している。一方、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と答えた人の割合は、『60代』～『70代以上』では他の年齢層より高い。

問2 今後、社会のあらゆる分野で、男女が対等な立場でともに参画していくためには、どのようなことが必要だと思われますか。（複数選択、2つまで）



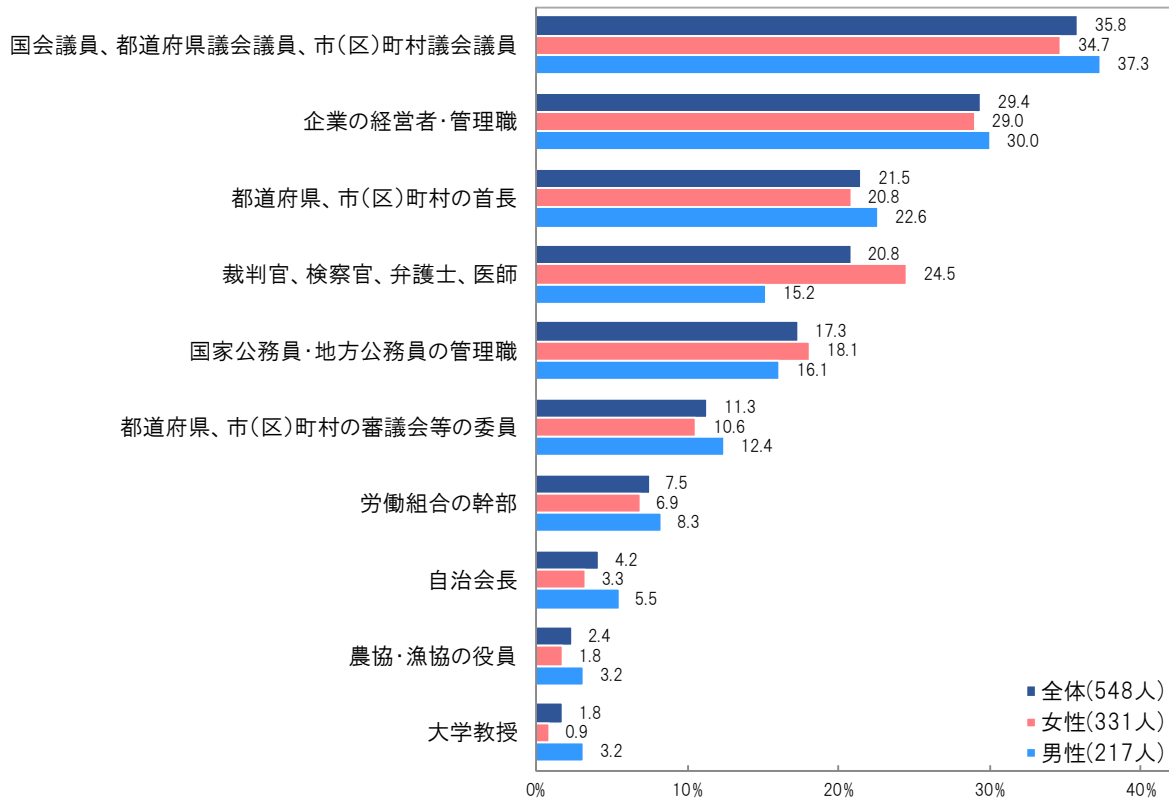
	性別による偏見、 固定的な社会通 念、慣習・しきたり を改めること	女性の就業・社 会参加を支援す る施設やサービ スの充実を図ること	女性の意識向上 や、知識・技術を 習得するなど力の 向上を図ること	法律や制度の見 直しを行い、男 女が対等になる よう改めること	政府や企業など の重要な役職に 一定の割合で女 性を登用すること	特に必要な ことはない	わからない	その他
全体(555人)	55.1%	50.3%	25.8%	22.2%	16.9%	5.2%	4.1%	3.8%
女性(337人)	57.3%	57.9%	23.1%	19.9%	17.5%	3.0%	3.6%	3.0%
男性(218人)	51.8%	38.5%	29.8%	25.7%	16.1%	8.7%	5.0%	5.0%
10代(6人)	83.3%	0.0%	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%
20代(46人)	65.2%	41.3%	8.7%	21.7%	15.2%	10.9%	2.2%	10.9%
30代(65人)	56.9%	49.2%	12.3%	18.5%	26.2%	4.6%	3.1%	6.2%
40代(79人)	60.8%	50.6%	22.8%	25.3%	17.7%	2.5%	0.0%	7.6%
50代(95人)	62.1%	58.9%	20.0%	23.2%	9.5%	4.2%	5.3%	1.1%
60代(141人)	53.2%	51.1%	39.0%	21.3%	14.2%	7.1%	2.8%	2.8%
70代以上(123人)	42.3%	48.8%	31.7%	22.0%	20.3%	4.1%	8.9%	0.8%

社会のあらゆる分野で男女がともに参画していくために必要なことについては、全体で見ると、「性別による様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」と答えた人の割合が55.1%と最も多く、続く「女性の就業・社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること」も50.3%と、この2項目が半数を超える割合を示している。

性別にみても、この2項目が他の項目より高い割合を示しているが、このうち「女性の就業・社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること」についてみると、『女性』が57.9%に対して、『男性』は38.5%にとどまっており、19.4ポイントの開きがある。

年齢別にみると、『60代』以下では「性別による様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」と答えた人の割合が50%以上であるのに対し、『70代以上』では42.3%で、「女性の就業・社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること」の48.8%より低い割合を示している。

問3 今後、男女共同参画社会を進めるために、女性が増えた方がよいと思う職業や役職などはどれですか。（複数選択、2つまで）



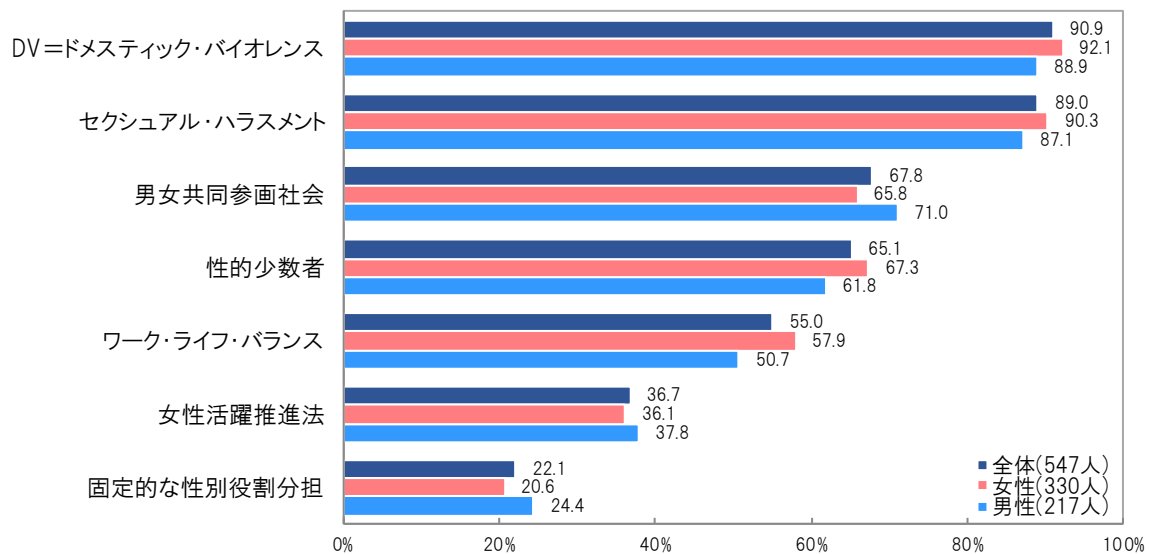
	国会議員、都道府県議会議員、市(区)町村議会議員	企業の経営者・管理職	都道府県、市(区)町村の首長	裁判官、検察官、弁護士、医師	国家公務員・地方公務員の管理職	都道府県、市(区)町村の審議会等の委員	労働組合の幹部	自治会長	農協・漁協の役員	大学教授	特にな	わかない	その他
全体(548人)	35.8%	29.4%	21.5%	20.8%	17.3%	11.3%	7.5%	4.2%	2.4%	1.8%	12.4%	9.3%	2.6%
女性(331人)	34.7%	29.0%	20.8%	24.5%	18.1%	10.6%	6.9%	3.3%	1.8%	0.9%	10.6%	10.3%	1.5%
男性(217人)	37.3%	30.0%	22.6%	15.2%	16.1%	12.4%	8.3%	5.5%	3.2%	3.2%	15.2%	7.8%	4.1%
10代(6人)	33.3%	16.7%	33.3%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	16.7%	0.0%
20代(46人)	17.4%	30.4%	10.9%	19.6%	6.5%	2.2%	10.9%	4.3%	6.5%	4.3%	15.2%	28.3%	4.3%
30代(64人)	34.4%	21.9%	21.9%	15.6%	23.4%	7.8%	4.7%	0.0%	1.6%	0.0%	18.8%	15.6%	3.1%
40代(77人)	37.7%	32.5%	26.0%	22.1%	22.1%	2.6%	9.1%	2.6%	1.3%	1.3%	9.1%	7.8%	1.3%
50代(94人)	30.9%	36.2%	22.3%	24.5%	17.0%	8.5%	8.5%	1.1%	2.1%	1.1%	12.8%	3.2%	4.3%
60代(135人)	44.4%	25.2%	20.7%	25.9%	14.1%	18.5%	8.1%	7.4%	0.7%	3.0%	9.6%	5.2%	3.0%
70代以上(126人)	36.5%	31.0%	22.2%	13.5%	19.8%	16.7%	5.6%	6.3%	4.0%	0.0%	13.5%	8.7%	0.8%

女性が増えた方がよいと思う職業や役職については、全体で見ると、「国会議員、都道府県議会議員、市(区)町村議会議員」と答えた人の割合が35.8%と最も多く、次いで「企業の経営者・管理職」(29.4%)であった。

性別にみると、男女間で最もポイントに開きがあるのは「裁判官、検察官、弁護士、医師」で、『女性』が24.5%に対し、『男性』は15.2%で、9.3ポイントの差となっている。

年齢別にみると、『20代』は、「国会議員、都道府県議会議員、市(区)町村議会議員」と答えた人の割合が他の年齢層より低い割合を示している。

問4 男女共同参画に関する言葉のうち、あなたが見たり聞いたりしたことがある言葉をすべて選んでください。（複数選択、あてはまるものすべて）



	DV=ドメスティック・バイオレンス	セクシュアル・ハラスメント	男女共同参画社会	性的少数者	ワーク・ライフ・バランス	女性活躍推進法	固定的な性別役割分担	見たり聞いたりしたものはなし
全体(547人)	90.9%	89.0%	67.8%	65.1%	55.0%	36.7%	22.1%	1.8%
女性(330人)	92.1%	90.3%	65.8%	67.3%	57.9%	36.1%	20.6%	2.1%
男性(217人)	88.9%	87.1%	71.0%	61.8%	50.7%	37.8%	24.4%	1.4%
10歳代(6人)	100.0%	100.0%	83.3%	66.7%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%
20歳代(46人)	100.0%	97.8%	82.6%	65.2%	69.6%	41.3%	26.1%	2.2%
30歳代(65人)	100.0%	98.5%	75.4%	83.1%	70.8%	43.1%	24.6%	0.0%
40歳代(76人)	96.1%	92.1%	59.2%	68.4%	65.8%	30.3%	22.4%	1.3%
50歳代(95人)	96.8%	95.8%	67.4%	63.2%	53.7%	30.5%	24.2%	1.1%
60歳代(139人)	87.1%	84.9%	69.1%	66.2%	43.9%	41.7%	20.9%	3.6%
70歳以上(120人)	78.3%	77.5%	61.7%	53.3%	47.5%	36.7%	20.0%	1.7%

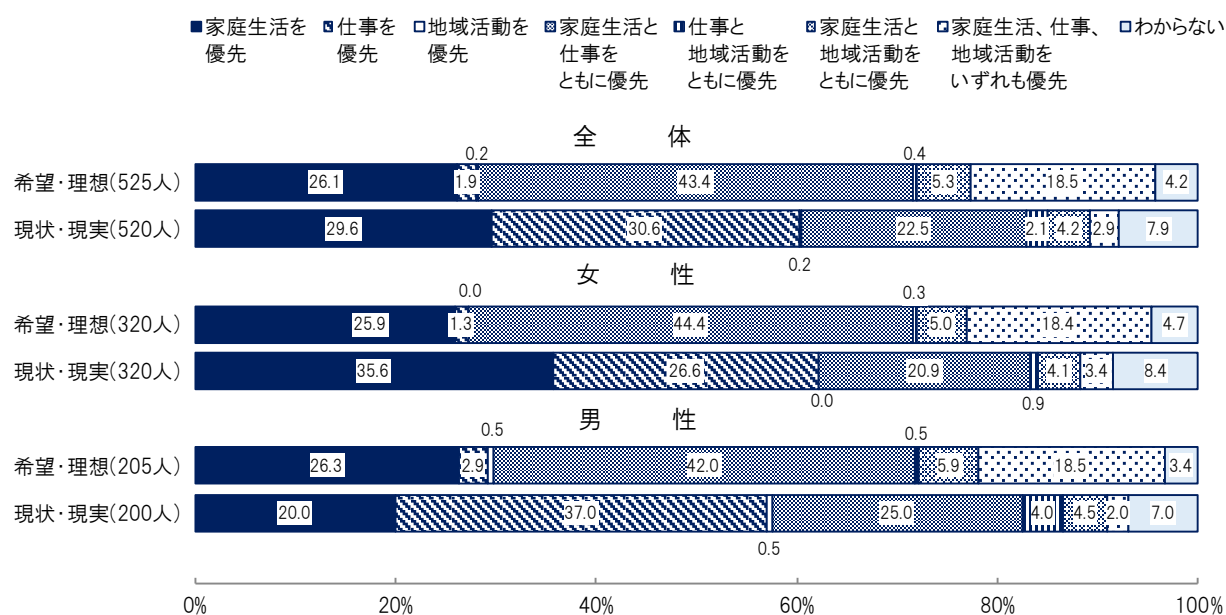
男女共同参画に関する用語の認知度については、全体でみると、「配偶者からの暴力（DV＝ドメスティック・バイオレンス）」と答えた人の割合が90.9%と最も多く、次いで「セクシュアル・ハラスメント」（89.0%）であった。

性別にみると、「性的少数者」と「ワーク・ライフ・バランス」については、『女性』が『男性』よりそれぞれ5.5ポイント、7.2ポイント高く、「男女共同参画社会」については、『男性』が『女性』より5.2ポイント高い。

年齢別にみると、『20代』、『30代』といった若い世代ほど全体的に認知度が高い傾向がみられる。

2 ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について

問5 生活の中での「家庭生活」「仕事」「地域活動」の優先度について、「1 あなたの希望・理想」と「2 あなたの現状・現実」について、それぞれア〜クの中からあなたにあてはまるものを1つ選んで○で囲んでください。



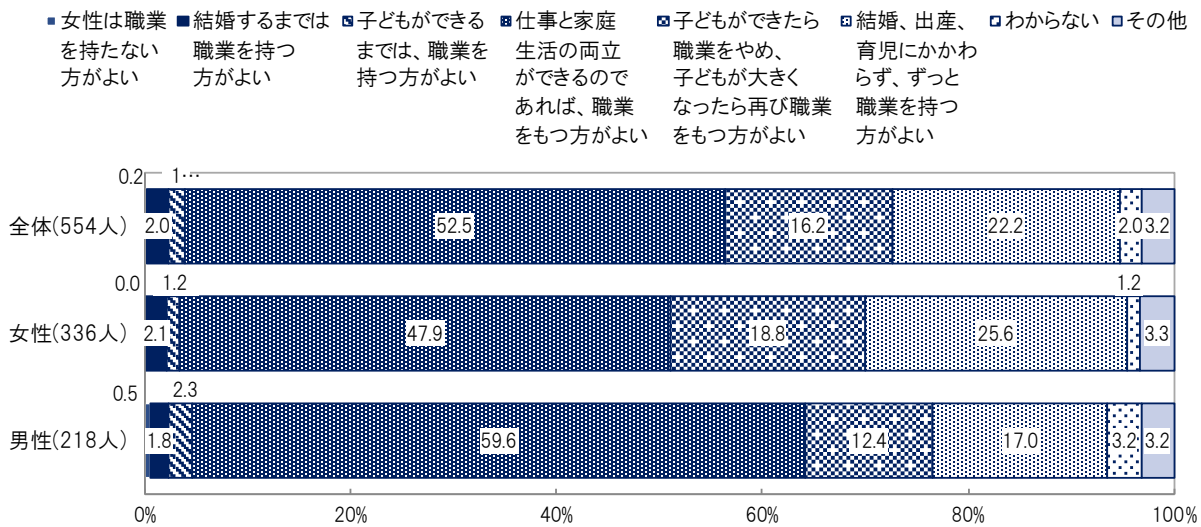
		家庭生活を優先	仕事を優先	地域活動を優先	家庭生活と仕事をともに優先	仕事と地域活動をともに優先	家庭生活と地域活動をともに優先	家庭生活、仕事、地域活動をいずれも優先	わからない
全体	希望・理想(525人)	26.1%	1.9%	0.2%	43.4%	0.4%	5.3%	18.5%	4.2%
	現状・現実(520人)	29.6%	30.6%	0.2%	22.5%	2.1%	4.2%	2.9%	7.9%
女性	希望・理想(320人)	25.9%	1.3%	0.0%	44.4%	0.3%	5.0%	18.4%	4.7%
	現状・現実(320人)	35.6%	26.6%	0.0%	20.9%	0.9%	4.1%	3.4%	8.4%
男性	希望・理想(205人)	26.3%	2.9%	0.5%	42.0%	0.5%	5.9%	18.5%	3.4%
	現状・現実(200人)	20.0%	37.0%	0.5%	25.0%	4.0%	4.5%	2.0%	7.0%
10代	希望・理想(6人)	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	現状・現実(6人)	33.3%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%
20代	希望・理想(43人)	27.9%	2.3%	0.0%	51.2%	0.0%	0.0%	9.3%	9.3%
	現状・現実(45人)	11.1%	44.4%	0.0%	11.1%	2.2%	0.0%	2.2%	28.9%
30代	希望・理想(63人)	28.6%	4.8%	0.0%	54.0%	0.0%	3.2%	7.9%	1.6%
	現状・現実(64人)	17.2%	48.4%	0.0%	23.4%	4.7%	1.6%	1.6%	3.1%
40代	希望・理想(76人)	28.9%	1.3%	0.0%	43.4%	1.3%	2.6%	19.7%	2.6%
	現状・現実(76人)	30.3%	30.3%	0.0%	28.9%	2.6%	1.3%	0.0%	6.6%
50代	希望・理想(93人)	20.4%	0.0%	0.0%	47.3%	0.0%	3.2%	23.7%	5.4%
	現状・現実(93人)	22.6%	38.7%	0.0%	24.7%	1.1%	2.2%	6.5%	4.3%
60代	希望・理想(131人)	25.2%	1.5%	0.0%	38.9%	0.0%	7.6%	24.4%	2.3%
	現状・現実(127人)	33.9%	22.8%	0.8%	26.8%	0.8%	6.3%	3.9%	4.7%
70代以上	希望・理想(113人)	26.5%	2.7%	0.9%	36.3%	0.9%	9.7%	16.8%	6.2%
	現状・現実(109人)	45.0%	17.4%	0.0%	16.5%	2.8%	9.2%	1.8%	7.3%

生活の中での「家庭生活」「仕事」「地域活動」の優先度について、全体でみると、「希望・理想」においては、「家庭生活と仕事をともに優先」と答えた人の割合が43.4%と最も多かったのに対し、「現状・現実」においては22.5%と、20.9ポイントの差異がみられる。一方で、「仕事を優先」は、「希望・理想」においては1.9%に対し、「現状・現実」においては30.6%と、28.7ポイントの開きがあった。

性別にみると、男女ともに「家庭生活と仕事をともに優先」を「希望・理想」としつつも、「現状・現実」においては、『女性』は「家庭生活を優先」、『男性』は「仕事を優先」が高い値を示している。

年齢別にみると、全ての年齢層で、「希望・理想」においては「家庭生活と仕事をともに優先」と答えた人の割合が最も高いが、「現状・現実」においては、『20代』～『50代』は「仕事を優先」、『60代』以上は「家庭生活を優先」の割合が高くなっている。

問6 一般的に、女性が職業を持つことについて、どのように思いますか。



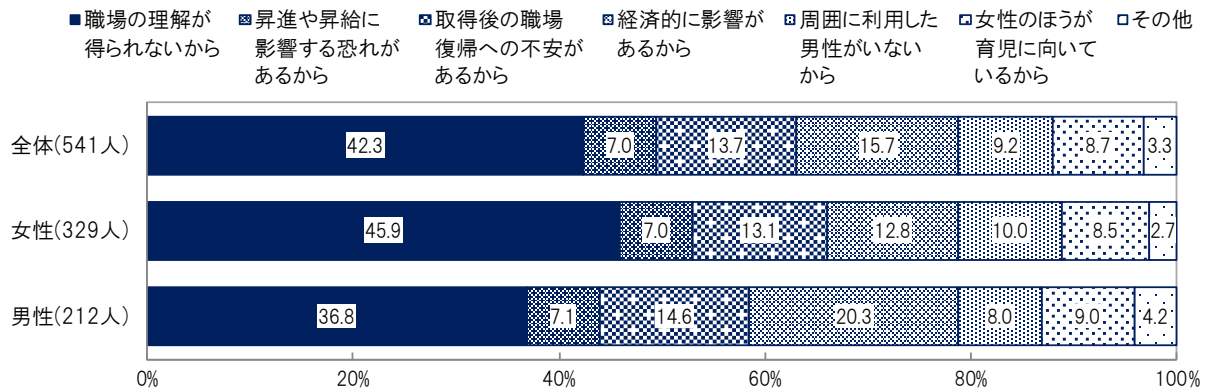
	女性には職業を持たない方がよい	結婚するまでは職業を持つ方がよい	子どもができるまでは、職業を持つ方がよい	仕事と家庭生活の両立ができるのであれば、職業をもつ方がよい	子どもができれば職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業をもつ方がよい	結婚、出産、育児にかかわらず、ずっと職業を持つ方がよい	わからない	その他
全体(554人)	0.2%	2.0%	1.6%	52.5%	16.2%	22.2%	2.0%	3.2%
女性(336人)	0.0%	2.1%	1.2%	47.9%	18.8%	25.6%	1.2%	3.3%
男性(218人)	0.5%	1.8%	2.3%	59.6%	12.4%	17.0%	3.2%	3.2%
10代(6人)	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	16.7%	16.7%	16.7%	16.7%
20代(46人)	0.0%	2.2%	2.2%	52.2%	6.5%	21.7%	4.3%	10.9%
30代(65人)	0.0%	0.0%	1.5%	46.2%	15.4%	35.4%	0.0%	1.5%
40代(77人)	0.0%	1.3%	1.3%	45.5%	14.3%	32.5%	2.6%	2.6%
50代(95人)	0.0%	0.0%	2.1%	53.7%	13.7%	25.3%	1.1%	4.2%
60代(140人)	0.7%	2.1%	0.7%	60.0%	17.9%	15.0%	0.7%	2.9%
70代以上(125人)	0.0%	4.8%	2.4%	52.0%	21.6%	15.2%	3.2%	0.8%

女性が職業を持つことについては、全体で見ると、「仕事と家庭生活の両立ができるのであれば、職業をもつ方がよい」と答えた人の割合が52.5%と最も多く、次いで多かった「結婚、出産、育児にかかわらず、ずっと職業を持つ方がよい」（22.2%）を30ポイント余り上回った。

性別で見ると、「仕事と家庭生活の両立ができるのであれば、職業をもつ方がよい」と答えた人の割合は、『男性』（59.6%）が『女性』（47.9%）より高い割合を示している。一方、「結婚、出産、育児にかかわらず、ずっと職業を持つ方がよい」や「子どもができれば職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業をもつ方がよい」と答えた人の割合は、『女性』が『男性』より高い。

年齢別にみると、「結婚、出産、育児にかかわらず、ずっと職業を持つ方がよい」と答えた人の割合は、『20代』～『50代』では20%以上で他の年齢層より高く、「子どもができれば職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業をもつ方がよい」と答えた人の割合は、『60代』は17.9%、『70代以上』は21.6%と、他の年齢層よりやや高くなっている。

問7 育児休業取得率は、平成28年度長崎県労働実態等調査によると、女性の89.2%に対し男性は8.8%と、女性に比べて男性の制度利用はなかなか進んでいませんが、その理由としてどのようなことが考えられますか。



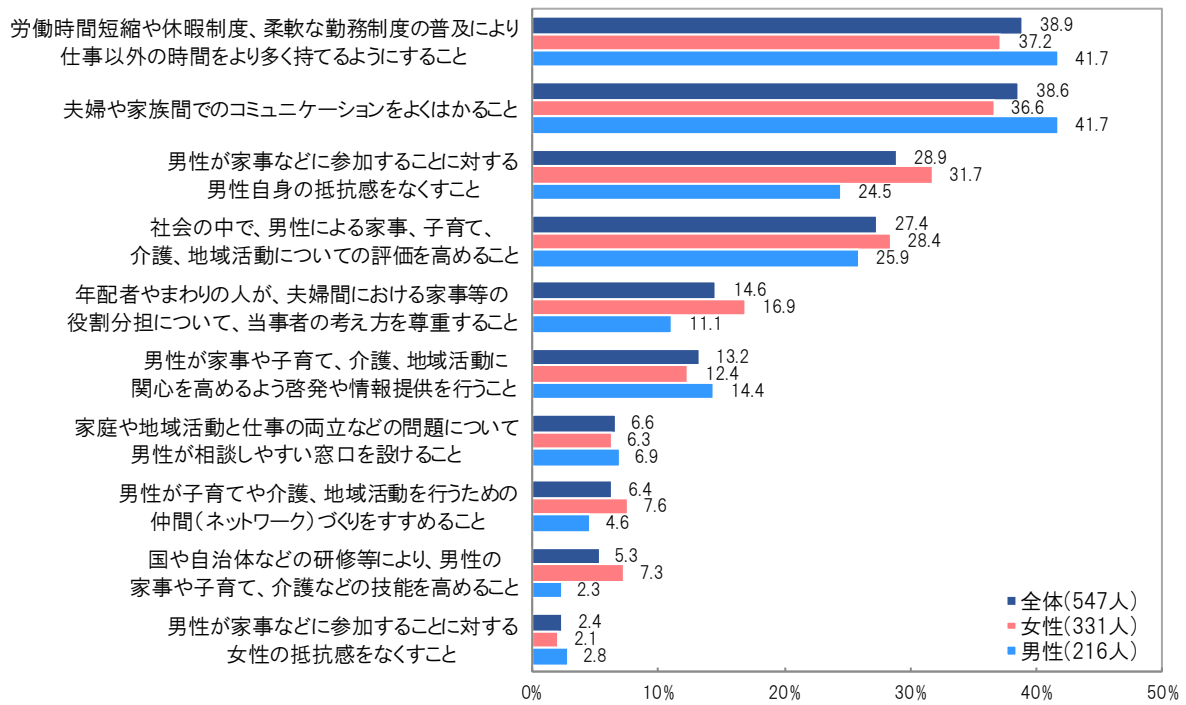
	職場の理解が得られないから	昇進や昇給に影響する恐れがあるから	取得後の職場復帰への不安があるから	経済的に影響があるから	周囲に利用した男性がいないから	女性のほうが育児に向いているから	その他
全体(541人)	42.3%	7.0%	13.7%	15.7%	9.2%	8.7%	3.3%
女性(329人)	45.9%	7.0%	13.1%	12.8%	10.0%	8.5%	2.7%
男性(212人)	36.8%	7.1%	14.6%	20.3%	8.0%	9.0%	4.2%
10代(6人)	50.0%	16.7%	16.7%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%
20代(46人)	52.2%	2.2%	6.5%	15.2%	10.9%	4.3%	8.7%
30代(65人)	47.7%	9.2%	6.2%	20.0%	15.4%	0.0%	1.5%
40代(77人)	42.9%	15.6%	7.8%	15.6%	7.8%	6.5%	3.9%
50代(93人)	45.2%	3.2%	14.0%	16.1%	8.6%	9.7%	3.2%
60代(137人)	33.6%	6.6%	19.0%	16.8%	11.7%	8.8%	3.6%
70代以上(117人)	42.7%	5.1%	17.9%	12.0%	4.3%	16.2%	1.7%

男性の育児休業制度の利用が進まない理由については、全体で見ると、「職場の理解が得られないから」と答えた人の割合が42.3%と最も多い。

性別で見ると、「職場の理解が得られないから」と答えた人の割合は、『女性』（45.9%）が『男性』（36.8%）より9.1ポイント高い。また、「経済的に影響があるから」は、『男性』（20.3%）が『女性』（12.8%）より7.5ポイント高い。

年齢別にみると、「女性のほうが育児に向いているから」と答えた人の割合が、年齢が高いほど高くなっている。

問8 今後、男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。（複数選択、2つまで）



	労働時間短縮や休暇制度、柔軟な勤務制度の普及により仕事以外の時間をより多く持てるようにすること	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること	男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと	社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についての評価を高めること	年配者やまわりの人が、夫婦間における家事等の役割分担について、当事者の考え方を尊重すること	男性が家事や子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと	家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について男性が相談しやすい窓口を設けること	男性が子育てや介護、地域活動を行うための仲間(ネットワーク)づくりをすすめること	国や自治体などの研修等により、男性の家事や子育て、介護などの技能を高めること	男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと	特に必要はない	わからない	その他
全体(547人)	38.9%	38.6%	28.9%	27.4%	14.6%	13.2%	6.6%	6.4%	5.3%	2.4%	1.5%	2.0%	1.5%
女性(331人)	37.2%	36.6%	31.7%	28.4%	16.9%	12.4%	6.3%	7.6%	7.3%	2.1%	0.3%	1.2%	1.2%
男性(216人)	41.7%	41.7%	24.5%	25.9%	11.1%	14.4%	6.9%	4.6%	2.3%	2.8%	3.2%	3.2%	1.9%
10代(6人)	33.3%	33.3%	66.7%	16.7%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
20代(46人)	47.8%	37.0%	30.4%	21.7%	10.9%	4.3%	8.7%	10.9%	0.0%	2.2%	2.2%	2.2%	4.3%
30代(65人)	58.5%	27.7%	23.1%	27.7%	16.9%	7.7%	4.6%	3.1%	1.5%	3.1%	1.5%	1.5%	3.1%
40代(78人)	43.6%	29.5%	38.5%	25.6%	12.8%	11.5%	3.8%	5.1%	2.6%	1.3%	2.6%	3.8%	2.6%
50代(93人)	37.6%	39.8%	32.3%	28.0%	18.3%	12.9%	4.3%	1.1%	6.5%	3.2%	3.2%	0.0%	2.2%
60代(139人)	35.3%	46.8%	25.2%	28.8%	12.9%	18.7%	5.0%	7.9%	5.8%	2.9%	0.0%	2.2%	0.0%
70代以上(120人)	27.5%	40.8%	25.0%	29.2%	15.8%	14.2%	12.5%	10.0%	9.2%	1.7%	0.8%	2.5%	0.0%

男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に参加するために必要なことについては、全体でみると、「労働時間短縮や休暇制度、柔軟な勤務制度の普及により、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」と答えた人の割合が38.9%と最も多く、次いで「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」（38.6%）であった。

性別でみると、「労働時間短縮や休暇制度、柔軟な勤務制度の普及」や「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」と答えた人の割合は『男性』が『女性』より高く、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」と答えた人の割合は『女性』が『男性』より高い。

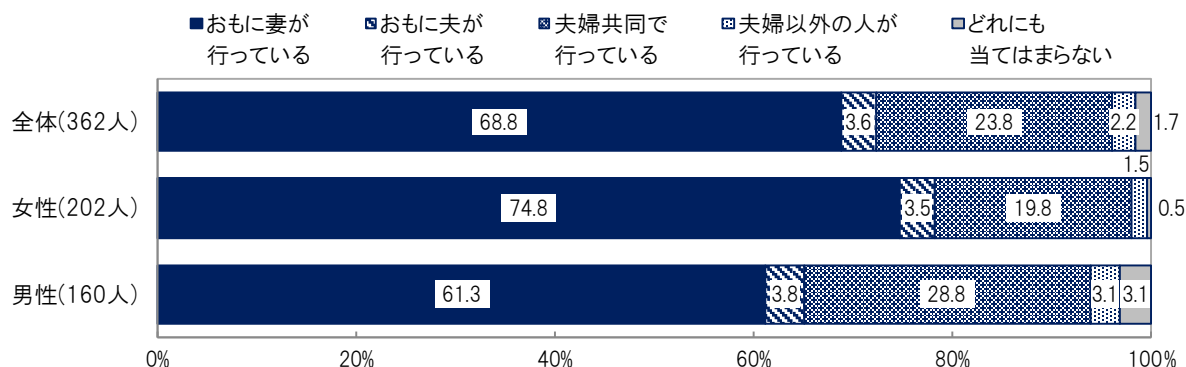
年齢別にみると、「労働時間短縮や休暇制度、柔軟な勤務制度の普及」は、『20代』～『40代』で4割以上と他の年齢層より高く、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」は、『50代』以上で4割以上と他の年齢層より高い割合を示している。

3 家庭生活の中での男女共同参画について

問9 現在ご結婚されているかた（事実婚を含む）におたずねします。

あなたの家庭では、実際にどなたが次の1～9までの役割を行っていますか。

1. 掃除

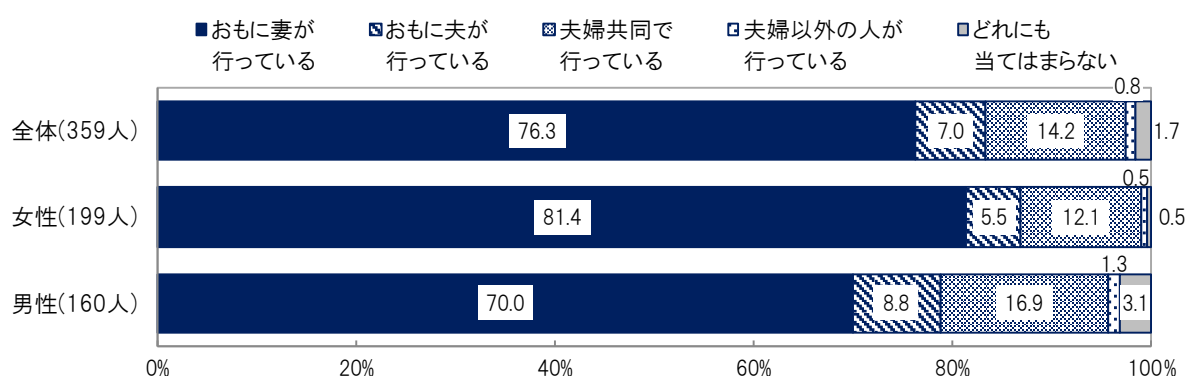


	おもに妻が行っている	おもに夫が行っている	夫婦共同で行っている	夫婦以外の方が行っている	どれにも当てはまらない
全体(362人)	68.8%	3.6%	23.8%	2.2%	1.7%
女性(202人)	74.8%	3.5%	19.8%	1.5%	0.5%
男性(160人)	61.3%	3.8%	28.8%	3.1%	3.1%
10代(0人)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
20代(10人)	80.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%
30代(41人)	65.9%	0.0%	26.8%	4.9%	2.4%
40代(50人)	82.0%	2.0%	14.0%	0.0%	2.0%
50代(66人)	83.3%	1.5%	12.1%	1.5%	1.5%
60代(108人)	63.0%	3.7%	31.5%	0.9%	0.9%
70代以上(87人)	57.5%	8.0%	27.6%	4.6%	2.3%

現在、結婚されているかた（事実婚を含む）の家庭における役割のうち、掃除については、男女ともに、「おもに妻が行っている」と答えた人の割合が最も多く、『女性』が74.8%、『男性』が61.3%と、女性が男性より高い割合を示している。次いで多い「夫婦共同で行っている」と答えた人の割合は、『男性』（28.8%）が『女性』（19.8%）より高くなっている。

年齢別にみると、『60代』以上では、「おもに妻が行っている」と答えた人の割合が他の年齢層より低い一方で、「夫婦共同で行っている」や「おもに夫が行っている」と答えた人の割合が他の年齢層より高くなっている。

2. 洗濯

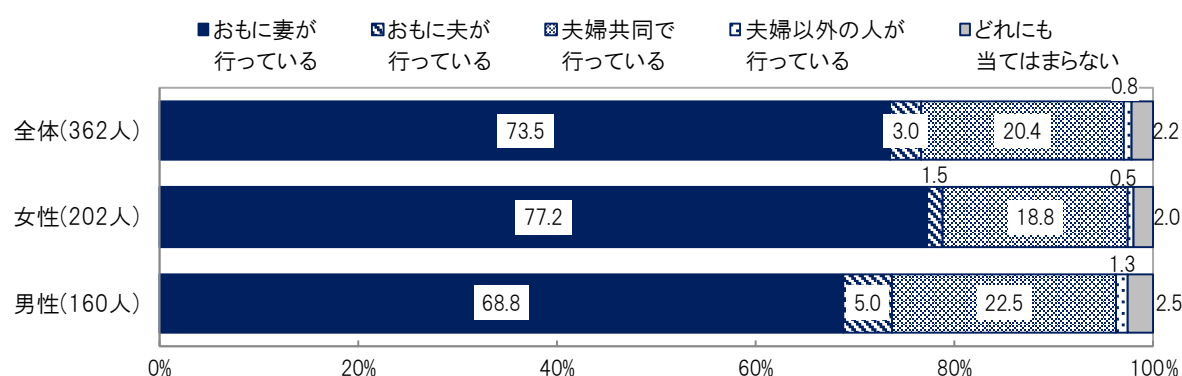


	おもに妻が行っている	おもに夫が行っている	夫婦共同で行っている	夫婦以外の方が行っている	どれにも当てはまらない
全体(359人)	76.3%	7.0%	14.2%	0.8%	1.7%
女性(199人)	81.4%	5.5%	12.1%	0.5%	0.5%
男性(160人)	70.0%	8.8%	16.9%	1.3%	3.1%
10代(0人)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
20代(10人)	60.0%	10.0%	20.0%	10.0%	0.0%
30代(41人)	63.4%	7.3%	24.4%	2.4%	2.4%
40代(50人)	72.0%	10.0%	16.0%	0.0%	2.0%
50代(66人)	84.8%	1.5%	9.1%	0.0%	4.5%
60代(107人)	80.4%	5.6%	12.1%	0.9%	0.9%
70代以上(85人)	75.3%	10.6%	14.1%	0.0%	0.0%

現在、結婚されているかた（事実婚を含む）の家庭における役割のうち、洗濯については、男女ともに、「おもに妻が行っている」と答えた人の割合が最も多く、『女性』が81.4%、『男性』が70.0%と、女性が男性より高い割合を示している。次いで多い「夫婦共同で行っている」と答えた人の割合は、『男性』（16.9%）が『女性』（12.1%）より高くなっている。

年齢別にみると、『40代』以上では、「おもに妻が行っている」と答えた人の割合が他の年齢層より高く、『20代』～『30代』では、「夫婦共同で行っている」と答えた人の割合が他の年齢層より高い。

3. 食事の支度、あとかたづけ

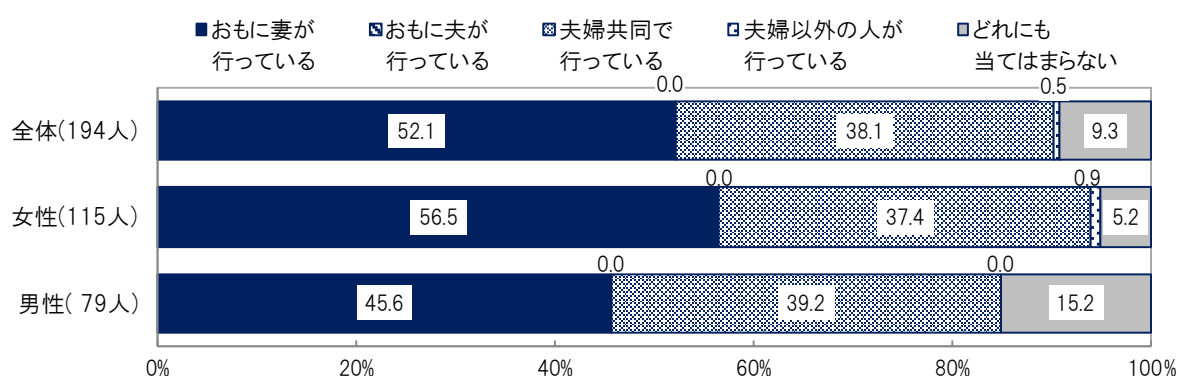


	おもに妻が行っている	おもに夫が行っている	夫婦共同で行っている	夫婦以外の人が行っている	どれにも当てはまらない
全体(362人)	73.5%	3.0%	20.4%	0.8%	2.2%
女性(202人)	77.2%	1.5%	18.8%	0.5%	2.0%
男性(160人)	68.8%	5.0%	22.5%	1.3%	2.5%
10代(0人)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
20代(10人)	60.0%	0.0%	30.0%	0.0%	10.0%
30代(41人)	65.9%	0.0%	29.3%	0.0%	4.9%
40代(50人)	80.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%
50代(66人)	81.8%	3.0%	10.6%	0.0%	4.5%
60代(109人)	67.9%	4.6%	23.9%	1.8%	1.8%
70代以上(86人)	75.6%	4.7%	18.6%	1.2%	0.0%

現在、結婚されているかた（事実婚を含む）の家庭における役割のうち、食事の支度、あとかたづけについては、男女ともに、「おもに妻が行っている」と答えた人の割合が最も多く、『女性』が77.2%、『男性』が68.8%と、女性が男性より高い割合を示している。次いで多い「夫婦共同で行っている」と答えた人の割合は、『男性』（22.5%）が『女性』（18.8%）より高くなっている。

年齢別にみると、『20代』～『30代』では「夫婦共同で行っている」と答えた人の割合が他の年齢層より高くなっている。

4. 育児（子どもがいる人のみ）

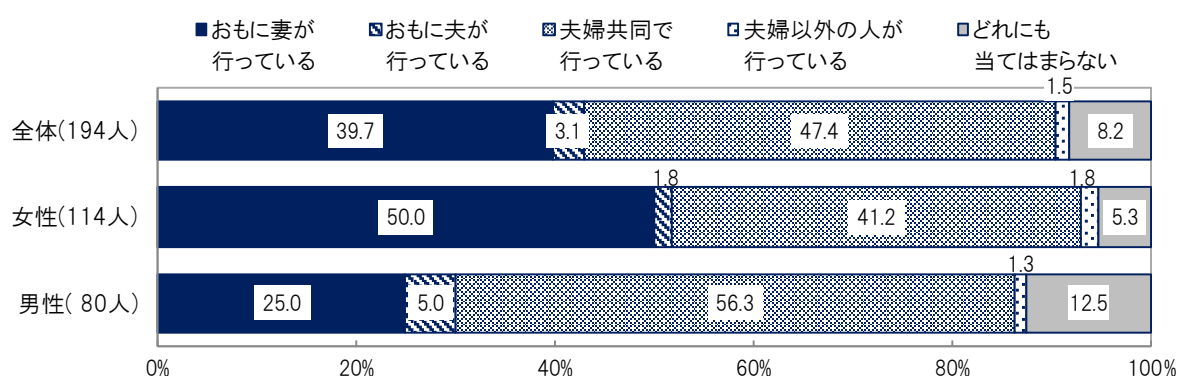


	おもに妻が行っている	おもに夫が行っている	夫婦共同で行っている	夫婦以外の人が行っている	どれにも当てはまらない
全体(194人)	52.1%	0.0%	38.1%	0.5%	9.3%
女性(115人)	56.5%	0.0%	37.4%	0.9%	5.2%
男性(79人)	45.6%	0.0%	39.2%	0.0%	15.2%
10代(0人)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
20代(3人)	33.3%	0.0%	66.7%	0.0%	0.0%
30代(29人)	41.4%	0.0%	55.2%	0.0%	3.4%
40代(44人)	63.6%	0.0%	29.5%	2.3%	4.5%
50代(45人)	57.8%	0.0%	37.8%	0.0%	4.4%
60代(49人)	51.0%	0.0%	38.8%	0.0%	10.2%
70代以上(24人)	37.5%	0.0%	29.2%	0.0%	33.3%

現在、結婚されていて（事実婚を含む）子どもがいるかたの家庭における役割のうち、育児については、男女ともに、「おもに妻が行っている」と答えた人の割合が最も多く、『女性』が56.5%、『男性』が45.6%と、女性が男性より高い割合を示している。

年齢別にみると、『40代』～『60代』では、「おもに妻が行っている」と答えた人の割合が50%以上と他の年齢層より高く、『20代』～『30代』では、「夫婦共同で行っている」と答えた人の割合が50%以上と、他の年齢層より高い割合を示している。

5. 子どもの教育（子どもがいる人のみ）



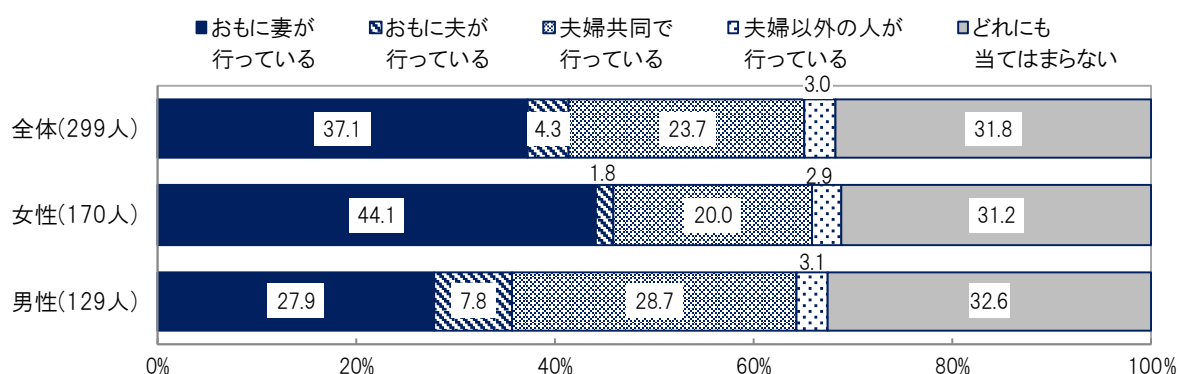
	おもに妻が行っている	おもに夫が行っている	夫婦共同で行っている	夫婦以外の方が行っている	どれにも当てはまらない
全体(194人)	39.7%	3.1%	47.4%	1.5%	8.2%
女性(114人)	50.0%	1.8%	41.2%	1.8%	5.3%
男性(80人)	25.0%	5.0%	56.3%	1.3%	12.5%
10代(0人)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
20代(3人)	33.3%	0.0%	66.7%	0.0%	0.0%
30代(29人)	34.5%	3.4%	51.7%	3.4%	6.9%
40代(44人)	47.7%	0.0%	47.7%	2.3%	2.3%
50代(44人)	45.5%	2.3%	47.7%	2.3%	2.3%
60代(51人)	39.2%	5.9%	47.1%	0.0%	7.8%
70代以上(23人)	21.7%	4.3%	39.1%	0.0%	34.8%

現在、結婚されていて（事実婚を含む）子どもがいるかたの家庭における役割のうち、子どもの教育については、全体でみると、「夫婦共同で行っている」と答えた人の割合が47.4%と最も多く、次いで「おもに妻が行っている」（39.7%）であった。

性別でみると、「おもに妻が行っている」と答えた人の割合は、『女性』が50.0%に対し『男性』は25.0%、「夫婦共同で行っている」と答えた人の割合は、『女性』は41.2%に対し『男性』は56.3%と、男女間で認識の違いがみられた。

年齢別にみると、若い世代ほど「夫婦共同で行っている」と答えた人の割合が多くなっている。

6. 家族の介護や病人の世話



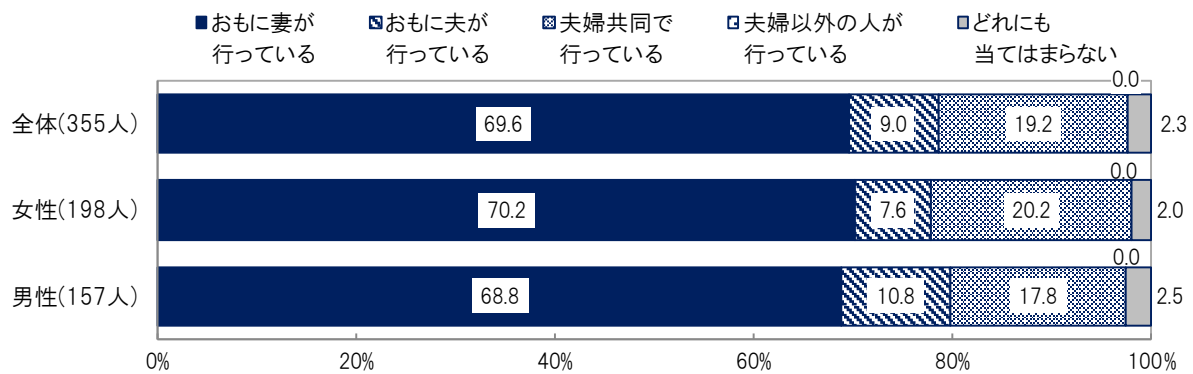
	おもに妻が行っている	おもに夫が行っている	夫婦共同で行っている	夫婦以外の方が行っている	どれにも当てはまらない
全体(299人)	37.1%	4.3%	23.7%	3.0%	31.8%
女性(170人)	44.1%	1.8%	20.0%	2.9%	31.2%
男性(129人)	27.9%	7.8%	28.7%	3.1%	32.6%
10代(0人)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
20代(7人)	0.0%	0.0%	14.3%	14.3%	71.4%
30代(40人)	15.0%	2.5%	15.0%	7.5%	60.0%
40代(49人)	36.7%	0.0%	22.4%	2.0%	38.8%
50代(61人)	49.2%	8.2%	23.0%	0.0%	19.7%
60代(85人)	41.2%	1.2%	32.9%	2.4%	22.4%
70代以上(57人)	38.6%	10.5%	19.3%	3.5%	28.1%

現在、結婚されているかた（事実婚を含む）の家庭における役割のうち、家族の介護や病人の世話については、全体で見ると、「おもに妻が行っている」と答えた人の割合が37.1%、「夫婦共同で行っている」と答えた人の割合が23.7%であった。

性別で見ると、「おもに妻が行っている」と答えた人の割合は、『女性』が44.1%に対し『男性』は27.9%、「夫婦共同で行っている」と答えた人の割合は、『女性』は20.0%に対し『男性』は28.7%と、男女間で認識の違いがみられた。

年齢別にみると、『40代』以上では、「おもに妻が行っている」と答えた人の割合が、「夫婦共同で行っている」と答えた人の割合を上回っている。

7. 家計の管理

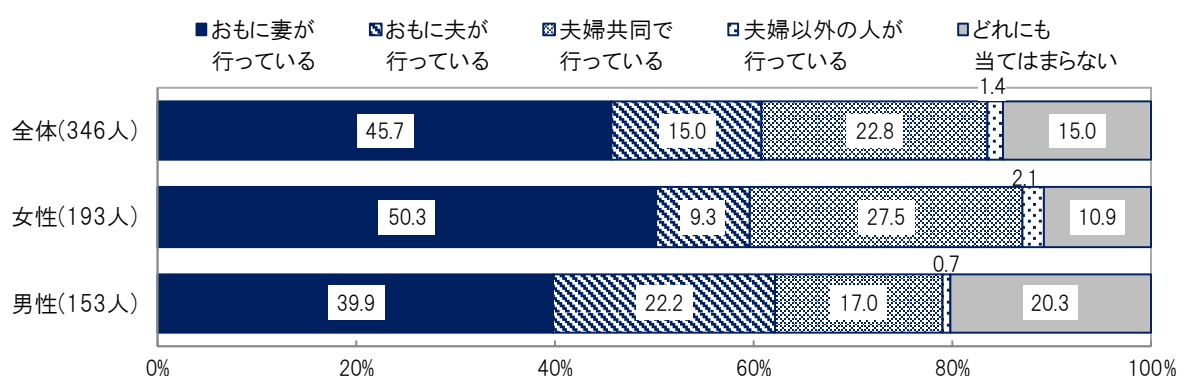


	主に妻が行っている	主に夫が行っている	夫婦共同で行っている	夫婦以外の方が行っている	どちらにも当てはまらない
全体(355人)	69.6%	9.0%	19.2%	0.0%	2.3%
女性(198人)	70.2%	7.6%	20.2%	0.0%	2.0%
男性(157人)	68.8%	10.8%	17.8%	0.0%	2.5%
10代(0人)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
20代(10人)	70.0%	0.0%	30.0%	0.0%	0.0%
30代(41人)	56.1%	14.6%	26.8%	0.0%	2.4%
40代(50人)	74.0%	6.0%	18.0%	0.0%	2.0%
50代(64人)	71.9%	6.3%	18.8%	0.0%	3.1%
60代(107人)	68.2%	9.3%	19.6%	0.0%	2.8%
70代以上(83人)	73.5%	10.8%	14.5%	0.0%	1.2%

現在、結婚されているかた（事実婚を含む）の家庭における役割のうち、家計の管理については、男女ともに、「主に妻が行っている」と答えた人の割合が最も多く、『女性』が70.2%、『男性』が68.8%であった。「夫婦共同で行っている」と答えた人の割合は、『女性』が20.2%、『男性』が17.8%となっている。

年齢別にみると、『20代』～『30代』は、他の年齢層に比べ、夫婦共同で行っている」と答えた人の割合がやや高く、「主に妻が行っている」と答えた人の割合がやや低くなっている。

8. 地域活動（自治会・PTA 活動など）への参加



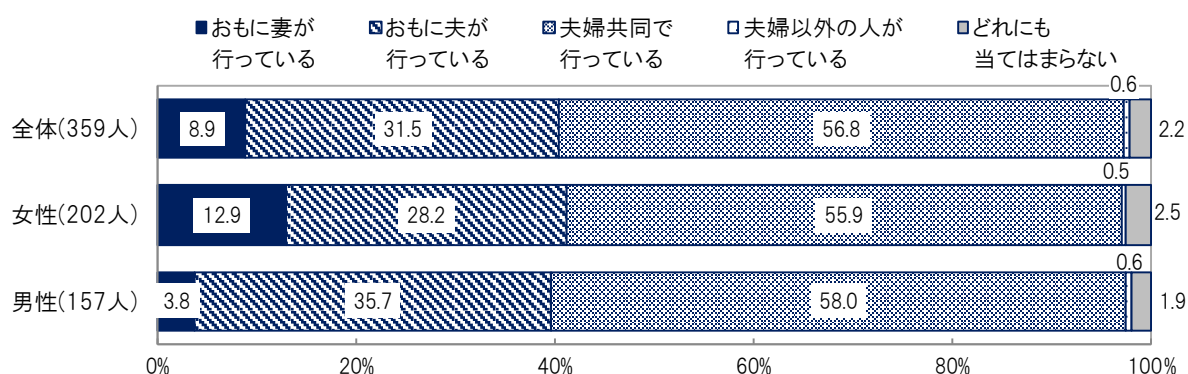
	おもに妻が行っている	おもに夫が行っている	夫婦共同で行っている	夫婦以外の方が行っている	どれにも当てはまらない
全体(346人)	45.7%	15.0%	22.8%	1.4%	15.0%
女性(193人)	50.3%	9.3%	27.5%	2.1%	10.9%
男性(153人)	39.9%	22.2%	17.0%	0.7%	20.3%
10代(0人)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
20代(8人)	0.0%	0.0%	25.0%	12.5%	62.5%
30代(41人)	39.0%	4.9%	17.1%	4.9%	34.1%
40代(49人)	63.3%	0.0%	22.4%	2.0%	12.2%
50代(65人)	53.8%	13.8%	26.2%	0.0%	6.2%
60代(107人)	41.1%	20.6%	25.2%	0.0%	13.1%
70代以上(76人)	42.1%	25.0%	19.7%	1.3%	11.8%

現在、結婚されているかた（事実婚を含む）の家庭における役割のうち、地域活動（自治会・PTA活動など）への参加については、全体で見ると、「おもに妻が行っている」と答えた人の割合が45.7%と最も多く、次いで「夫婦共同で行っている」（22.8%）、「おもに夫が行っている」（15.0%）であった。

性別で見ると、「おもに妻が行っている」と「夫婦共同で行っている」と答えた人の割合はそれぞれ『男性』が『女性』より約10ポイント低いのに対し、「おもに夫が行っている」と答えた人の割合は『男性』が『女性』より約13ポイント高くなっており、男女間の認識の違いがみられる。

年齢別にみると、年齢が高くなるほど「おもに夫が行っている」と答えた人の割合が多くなっている。

9. 家庭問題における最終的な決定



	おもに妻が行っている	おもに夫が行っている	夫婦共同で行っている	夫婦以外の方が行っている	どれにも当てはまらない
全体(359人)	8.9%	31.5%	56.8%	0.6%	2.2%
女性(202人)	12.9%	28.2%	55.9%	0.5%	2.5%
男性(157人)	3.8%	35.7%	58.0%	0.6%	1.9%
10代(0人)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
20代(10人)	0.0%	10.0%	90.0%	0.0%	0.0%
30代(41人)	4.9%	29.3%	61.0%	0.0%	4.9%
40代(50人)	12.0%	22.0%	66.0%	0.0%	0.0%
50代(65人)	7.7%	38.5%	50.8%	0.0%	3.1%
60代(109人)	6.4%	34.9%	56.0%	0.0%	2.8%
70代以上(84人)	14.3%	31.0%	51.2%	2.4%	1.2%

現在、結婚されているかた（事実婚を含む）の家庭における役割のうち、家庭問題における最終的な決定については、全体で見ると、「夫婦共同で行っている」と答えた人の割合が56.8%と最も多く、次いで「おもに夫が行っている」（31.5%）、「おもに妻が行っている」（8.9%）であった。

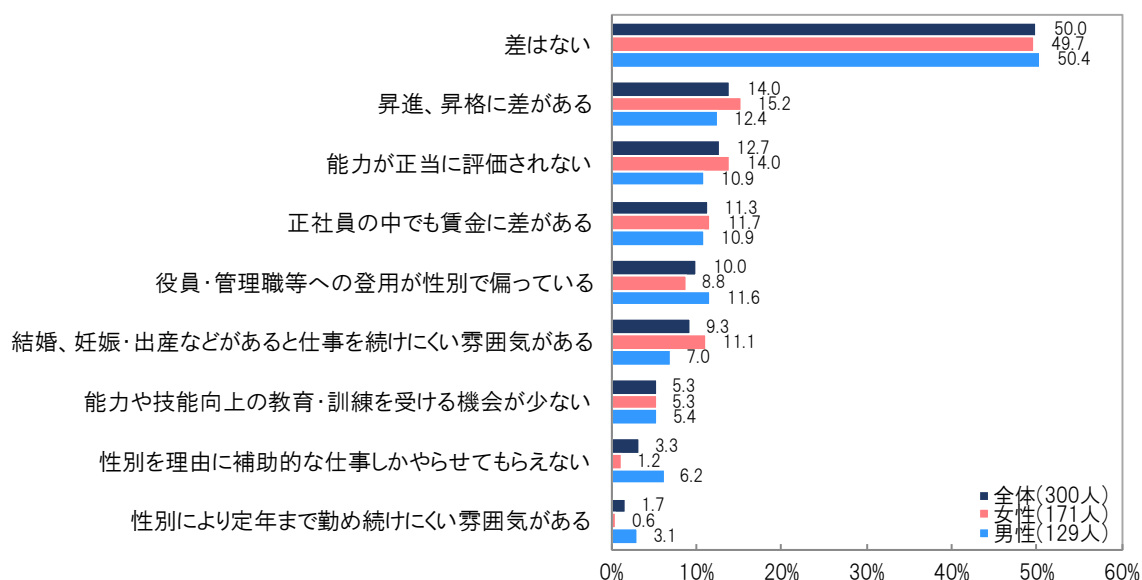
性別で見ると、「おもに妻が行っている」と答えた人の割合は、『女性』が『男性』より9.1ポイント高く、「おもに夫が行っている」と答えた人の割合は、『男性』が『女性』より7.5ポイント高くなっており、男女間の認識の違いがみられる。

年齢別にみると、『50代』以上では「夫婦共同で行っている」と答えた人の割合が他の年齢層より比較的低く、「おもに夫が行っている」と答えた人の割合が他の年齢層より比較的高くなっている。

4 職業生活の中での男女共同参画について

問10 職業をお持ちのかたにおたずねします。

あなたは、今の職場の仕事内容や待遇の面で、性別を理由とした男女間の差があると思いますか。（複数選択、2つまで）



	差はない	昇進、昇格に差がある	能力が正當に評価されない	正社員の中でも賃金に差がある	役員・管理職等への登用が性別で偏っている	結婚、妊娠・出産などがあると仕事を続けにくい雰囲気がある	能力や技能向上の教育・訓練を受ける機会が少ない	性別を理由に補助的な仕事しかやらせてもらえない	性別により定年まで勤め続けにくい雰囲気がある	わからない	その他
全体(300人)	50.0%	14.0%	12.7%	11.3%	10.0%	9.3%	5.3%	3.3%	1.7%	11.7%	7.0%
女性(171人)	49.7%	15.2%	14.0%	11.7%	8.8%	11.1%	5.3%	1.2%	0.6%	9.9%	7.6%
男性(129人)	50.4%	12.4%	10.9%	10.9%	11.6%	7.0%	5.4%	6.2%	3.1%	14.0%	6.2%
10代(1人)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
20代(30人)	53.3%	3.3%	6.7%	0.0%	10.0%	10.0%	3.3%	10.0%	0.0%	16.7%	6.7%
30代(58人)	43.1%	15.5%	6.9%	5.2%	5.2%	19.0%	3.4%	3.4%	0.0%	22.4%	1.7%
40代(66人)	48.5%	16.7%	9.1%	16.7%	7.6%	6.1%	6.1%	1.5%	1.5%	12.1%	4.5%
50代(70人)	55.7%	20.0%	5.7%	11.4%	17.1%	10.0%	1.4%	1.4%	2.9%	4.3%	10.0%
60代(63人)	47.6%	9.5%	27.0%	17.5%	11.1%	3.2%	11.1%	4.8%	1.6%	6.3%	9.5%
70代以上(12人)	58.3%	8.3%	41.7%	8.3%	0.0%	8.3%	8.3%	0.0%	8.3%	16.7%	16.7%

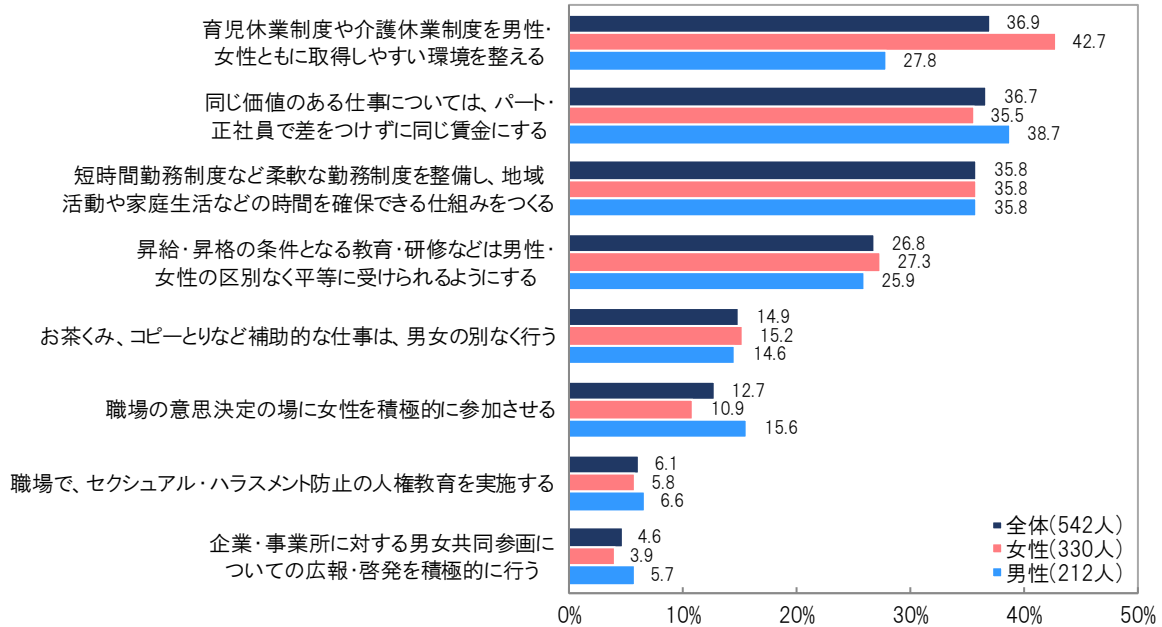
職場における男女間の待遇の差（有職者）については、「差はない」と答えた人の割合が、男女ともに約50%と最も多い。

性別でみると、「結婚、妊娠・出産などがあると仕事を続けにくい雰囲気がある」や「能力が正當に評価されない」、「昇進、昇格に差がある」と答えた人の割合は『女性』が『男性』より高く、「性別を理由に補助的な仕事しかやらせてもらえない」や「役員・管理職等への登用が性別で偏っている」と答えた人の割合は『男性』が『女性』より高い。

年齢別にみると、『30代』～『50代』では「昇進、昇格に差がある」と答えた人の割合が他の年齢層より比較的高く、『60代』～『70代以上』では「能力が正當に評価されない」と答えた人の割合が、他の年齢層より高い。

問11 すべてのかたにおたずねします。

性別にかかわらず、各自の能力を發揮していきいきと働くためには、どのようなことが必要だと思いますか。（複数選択、2つまで）



	育児休業制度や介護休業制度を男性・女性ともに取得しやすい環境を整える	同じ価値のある仕事については、パート・正社員で差をつけずに同じ賃金にする	短時間勤務制度など柔軟な勤務制度を整備し、地域活動や家庭生活などの時間を確保できる仕組みをつくる	昇給・昇格の条件となる教育・研修などは男性・女性の区別なく平等に受けられるようにする	お茶くみ、コピーとりなど補助的な仕事は、男女の別なく行う	職場の意思決定の場に女性を積極的に参加させる	職場で、セクシュアル・ハラスメント防止の人権教育を実施する	企業・事業所に対する男女共同参画についての広報・啓発を積極的に行う	特にない	わからない	その他
全体(542人)	36.9%	36.7%	35.8%	26.8%	14.9%	12.7%	6.1%	4.6%	5.0%	3.0%	1.3%
女性(330人)	42.7%	35.5%	35.8%	27.3%	15.2%	10.9%	5.8%	3.9%	3.0%	2.7%	1.2%
男性(212人)	27.8%	38.7%	35.8%	25.9%	14.6%	15.6%	6.6%	5.7%	8.0%	3.3%	1.4%
10代(6人)	16.7%	33.3%	16.7%	66.7%	33.3%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
20代(46人)	45.7%	10.9%	56.5%	17.4%	13.0%	4.3%	4.3%	0.0%	8.7%	4.3%	4.3%
30代(64人)	51.6%	23.4%	51.6%	21.9%	9.4%	9.4%	6.3%	1.6%	4.7%	1.6%	4.7%
40代(79人)	34.2%	25.3%	43.0%	27.8%	15.2%	15.2%	5.1%	3.8%	5.1%	1.3%	0.0%
50代(94人)	34.0%	41.5%	30.9%	26.6%	11.7%	14.9%	7.4%	5.3%	8.5%	1.1%	2.1%
60代(138人)	38.4%	44.9%	31.2%	27.5%	14.5%	15.2%	5.8%	8.7%	2.2%	2.2%	0.0%
70代以上(115人)	28.7%	48.7%	24.3%	29.6%	20.9%	11.3%	7.0%	3.5%	4.3%	7.0%	0.0%

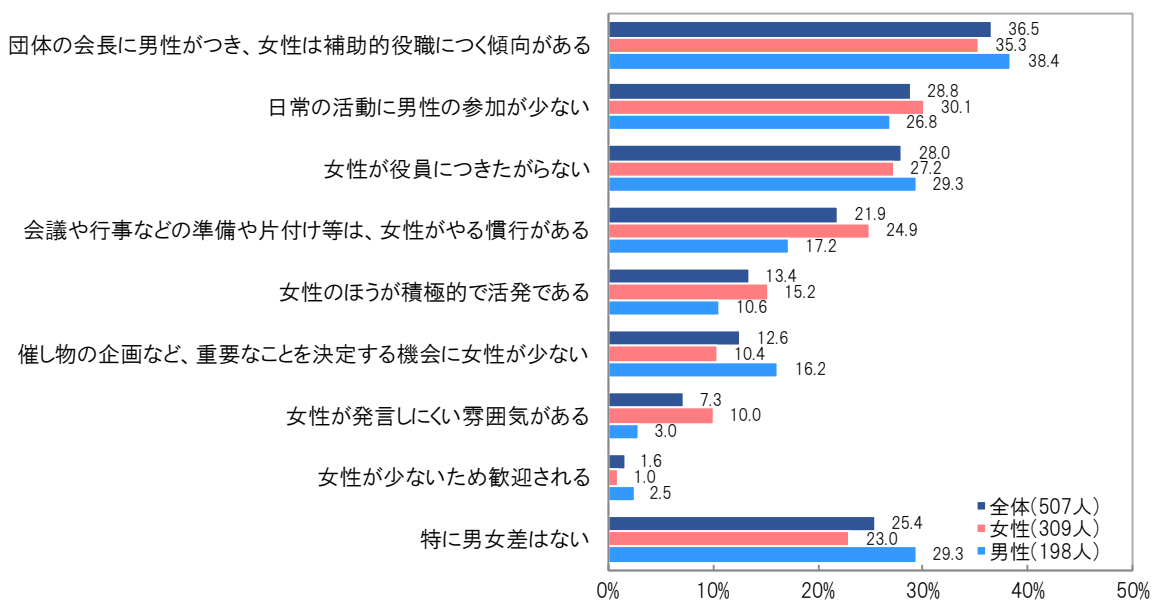
性別にかかわらず各自が能力を發揮して働くために必要なことについては、全体で見ると、「育児休業制度や介護休業制度を男性・女性ともに取得しやすい環境を整える」と答えた人の割合が36.9%と最も高く、次いで「同じ価値のある仕事については、パート・正社員で差をつけずに同じ賃金にする」（36.7%）、「短時間勤務制度など柔軟な勤務制度を整備し、地域活動や家庭生活などの時間を確保できる仕組みをつくる」（35.8%）であった。

性別で見ると、「育児休業制度や介護休業制度を男性・女性ともに取得しやすい環境を整える」と答えた人の割合が、『女性』は42.7%に対し『男性』は27.8%と、約15ポイントの開きがあり、認識の違いがみられる。

年齢別にみると、『50代』以上では、「同じ価値のある仕事については、パート・正社員で差をつけずに同じ賃金にする」と答えた人の割合が、他の年齢層より高くなっている。

5 地域活動などでの男女共同参画について

問12 あなたが参加している地域活動（自治会、PTA活動など）での現状について、あてはまるものをすべて選んでください。（複数選択）



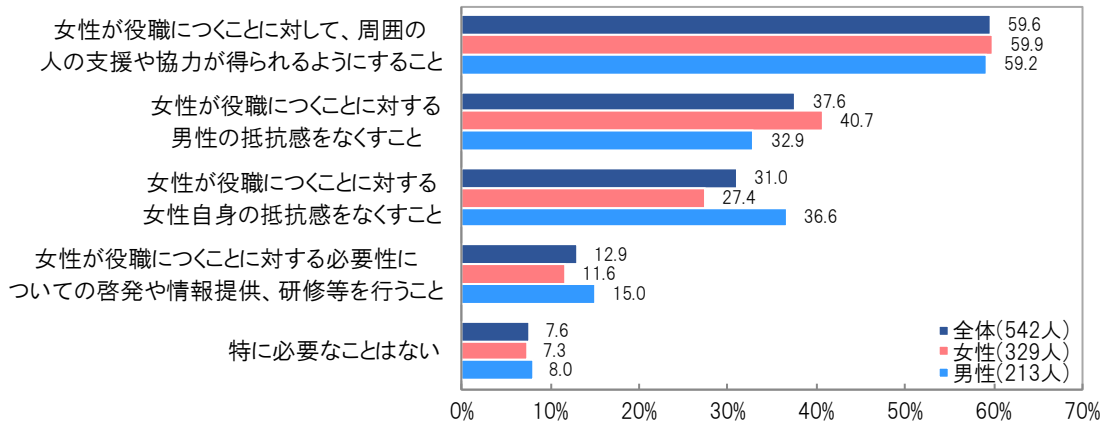
	団体の会長に男性がつき、女性は補助的役職につく傾向がある	日常の活動に男性の参加が少ない	女性が役員につきたがらない	会議や行事などの準備や片付け等は、女性がやる慣行がある	女性のほうが積極的で活発である	催し物の企画など、重要なことを決定する機会に女性が少ない	女性が発言しにくい雰囲気がある	女性が少ないため歓迎される	特に男女差はない	その他
全体(507人)	36.5%	28.8%	28.0%	21.9%	13.4%	12.6%	7.3%	1.6%	25.4%	11.0%
女性(309人)	35.3%	30.1%	27.2%	24.9%	15.2%	10.4%	10.0%	1.0%	23.0%	9.4%
男性(198人)	38.4%	26.8%	29.3%	17.2%	10.6%	16.2%	3.0%	2.5%	29.3%	13.6%
10代(6人)	33.3%	16.7%	0.0%	16.7%	16.7%	0.0%	16.7%	16.7%	50.0%	0.0%
20代(37人)	18.9%	16.2%	13.5%	18.9%	10.8%	10.8%	5.4%	0.0%	35.1%	18.9%
30代(62人)	21.0%	21.0%	9.7%	24.2%	11.3%	4.8%	4.8%	0.0%	19.4%	29.0%
40代(73人)	32.9%	28.8%	17.8%	19.2%	15.1%	12.3%	8.2%	1.4%	24.7%	11.0%
50代(89人)	37.1%	30.3%	32.6%	25.8%	12.4%	10.1%	2.2%	0.0%	27.0%	6.7%
60代(126人)	40.5%	34.1%	35.7%	23.8%	12.7%	12.7%	7.9%	4.8%	25.4%	8.7%
70代以上(114人)	48.2%	30.7%	38.6%	18.4%	15.8%	20.2%	11.4%	0.0%	23.7%	5.3%

地域活動での現状については、全体で見ると、「団体の会長に男性がつき、女性は補助的役職につく傾向がある」と答えた人の割合が36.5%と最も多く、次いで「日常の活動に男性の参加が少ない」（28.8%）、「女性が役員につきたがらない」（28.0%）で、これらは「特に男女差はない」（25.4%）を上回った。

性別で見ると、「会議や行事などの準備や片付け等は、女性がやる慣行がある」と答えた人の割合は『女性』が『男性』より7.7ポイント高く、「特に男女差はない」は『男性』が『女性』より6.3ポイント高くなっている。

年齢別にみると、『50代』以上で「女性が役員につきたがらない」と答えた人の割合が他の年齢層より高く、『20代』以下では「特に男女差はない」が他の年齢層より高くなっている。

問13 女性が自治会長などの地域活動における役職についたり、活動の意思決定の場へ参画していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。（複数選択、2つまで）



	女性が役職につくことに対して、周囲の人の支援や協力が得られるようにすること	女性が役職につくことに対する男性の抵抗感をなくすこと	女性が役職につくことに対する女性自身の抵抗感をなくすこと	女性が役職につくことに対する必要性についての啓発や情報提供、研修等を行うこと	特に必要なことはない	わからない	その他
全体(542人)	59.6%	37.6%	31.0%	12.9%	7.6%	12.7%	1.5%
女性(329人)	59.9%	40.7%	27.4%	11.6%	7.3%	14.6%	0.9%
男性(213人)	59.2%	32.9%	36.6%	15.0%	8.0%	9.9%	2.3%
10代(6人)	66.7%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%
20代(46人)	47.8%	43.5%	23.9%	15.2%	8.7%	17.4%	2.2%
30代(65人)	56.9%	49.2%	20.0%	7.7%	6.2%	13.8%	3.1%
40代(79人)	59.5%	43.0%	17.7%	6.3%	10.1%	11.4%	2.5%
50代(93人)	55.9%	43.0%	39.8%	14.0%	4.3%	7.5%	0.0%
60代(135人)	65.9%	28.1%	38.5%	16.3%	5.2%	13.3%	1.5%
70代以上(118人)	61.0%	31.4%	32.2%	15.3%	11.9%	14.4%	0.8%

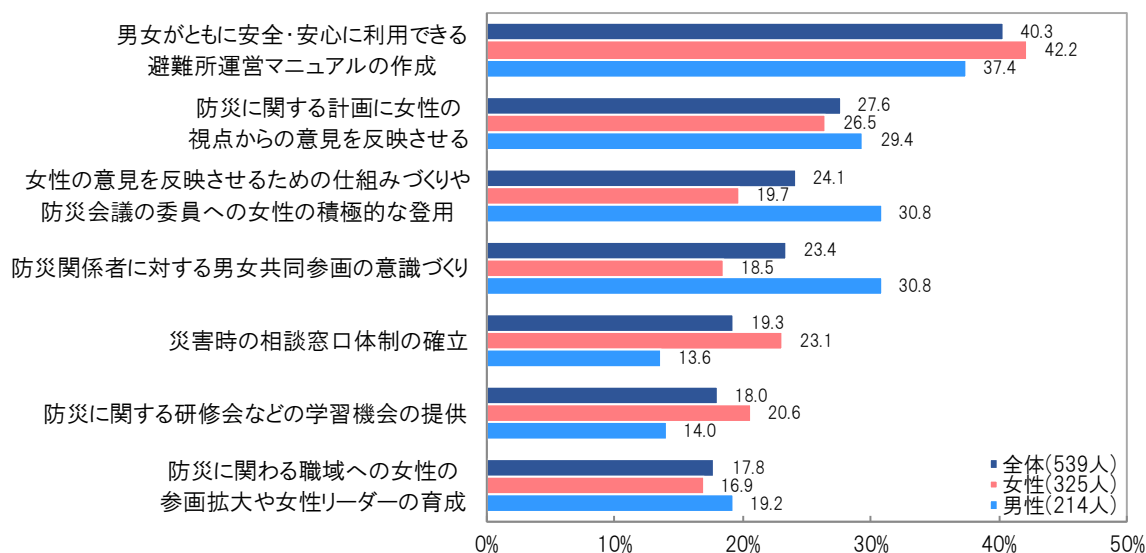
女性が地域活動で役職についたり、意思決定の場へ参画していくために必要なことについては、全体でみると、「女性が役職につくことに対して、周囲の人の支援や協力が得られるようにすること」と答えた人の割合が59.6%と最も多く、次いで「女性が役職につくことに対する男性の抵抗感をなくすこと」（37.6%）、「女性が役職につくことに対する女性自身の抵抗感をなくすこと」（31.0%）であった。

性別でみると、「女性が役職につくことに対する男性の抵抗感をなくすこと」と答えた人の割合は、『女性』（40.7%）が『男性』（32.9%）より7.8ポイント高く、「女性が役職につくことに対する女性自身の抵抗感をなくすこと」と答えた人の割合は、『男性』（36.6%）が『女性』（27.4%）より9.2ポイント高い。

年齢別にみると、「女性が役職につくことに対する男性の抵抗感をなくすこと」と答えた人の割合は『60代』以上が他の年齢層より低く、「女性が役職につくことに対する女性自身の抵抗感をなくすこと」と答えた人の割合は『20代』～『40代』が他の年齢層より低くなっている。

6 防災対策における男女共同参画について

問14 大規模な災害時へ備えるには、女性の視点での意見も必要となります。今後、男女がともに安心・安全な防災体制を整えるためには、どのような取り組みが必要だと思いますか。（複数選択、2つまで）



	男女がともに安全・安心に利用できる避難所運営マニュアルの作成	防災に関する計画に女性の視点からの意見を反映させる	女性の意見を反映させるための仕組みづくりや防災会議の委員への女性の積極的な登用	防災関係者に対する男女共同参画の意識づくり	災害時の相談窓口体制の確立	防災に関する研修会などの学習機会の提供	防災に関わる職域への女性の参画拡大や女性リーダーの育成	特に必要ではない	わからない	その他
全体(539人)	40.3%	27.6%	24.1%	23.4%	19.3%	18.0%	17.8%	0.6%	7.4%	0.4%
女性(325人)	42.2%	26.5%	19.7%	18.5%	23.1%	20.6%	16.9%	0.6%	8.6%	0.0%
男性(214人)	37.4%	29.4%	30.8%	30.8%	13.6%	14.0%	19.2%	0.5%	5.6%	0.9%
10代(6人)	50.0%	66.7%	33.3%	33.3%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
20代(45人)	35.6%	31.1%	20.0%	8.9%	6.7%	15.6%	28.9%	0.0%	15.6%	2.2%
30代(62人)	40.3%	41.9%	32.3%	16.1%	9.7%	11.3%	9.7%	1.6%	8.1%	1.6%
40代(79人)	48.1%	27.8%	22.8%	17.7%	20.3%	12.7%	19.0%	0.0%	6.3%	0.0%
50代(93人)	36.6%	30.1%	21.5%	26.9%	18.3%	22.6%	19.4%	0.0%	4.3%	0.0%
60代(134人)	35.1%	26.1%	26.9%	30.6%	24.6%	21.6%	20.9%	0.0%	3.0%	0.0%
70代以上(120人)	45.0%	16.7%	20.8%	25.0%	24.2%	18.3%	13.3%	1.7%	12.5%	0.0%

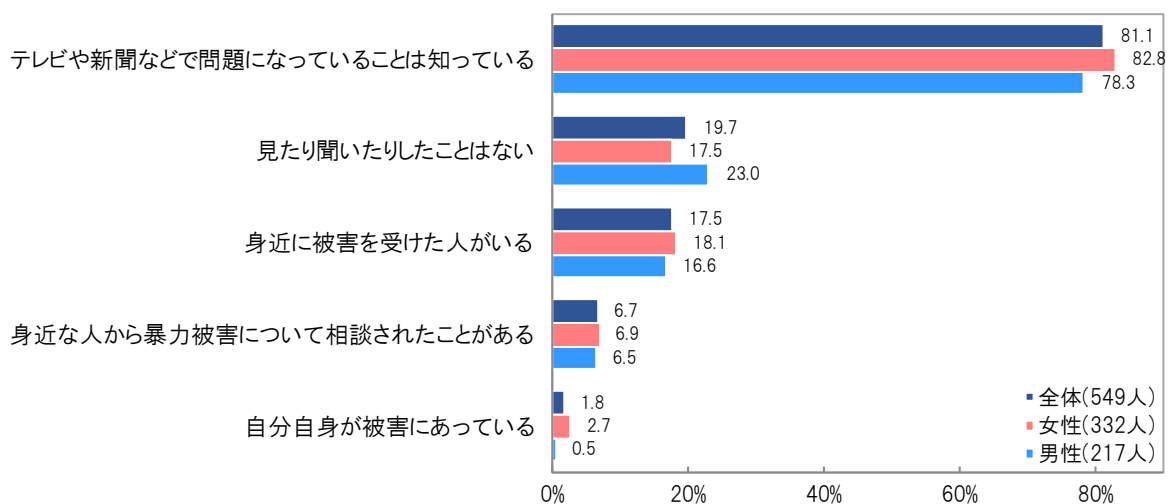
男女がともに安心・安全な防災体制を整えるために必要なことについては、全体で見ると、「男女がともに安全・安心に利用できる避難所運営マニュアルの作成」と答えた人の割合が40.3%と最も多く、次いで「防災に関する計画に女性の視点からの意見を反映させる」（27.6%）、「女性の意見を反映させるための仕組みづくりや防災会議の委員への女性の積極的な登用」（24.1%）であった。

性別で見ると、「防災関係者に対する男女共同参画の意識づくり」や「女性の意見を反映させるための仕組みづくりや防災会議の委員への女性の積極的な登用」は『男性』が『女性』より約10ポイント高く、「災害時の相談窓口体制の確立」は『女性』が『男性』より約10ポイント高い。

年齢別にみると、「災害時の相談窓口体制の確立」は『40代』以上で高くなっている。

7 男女共同参画を阻害する暴力について

問15 あなたは、配偶者や恋人など親密な関係にある（あった）異性からの暴力（DV＝ドメスティック・バイオレンス）や、その被害について、見たり聞いたりしたことがありますか。（複数選択、あてはまるものすべて）

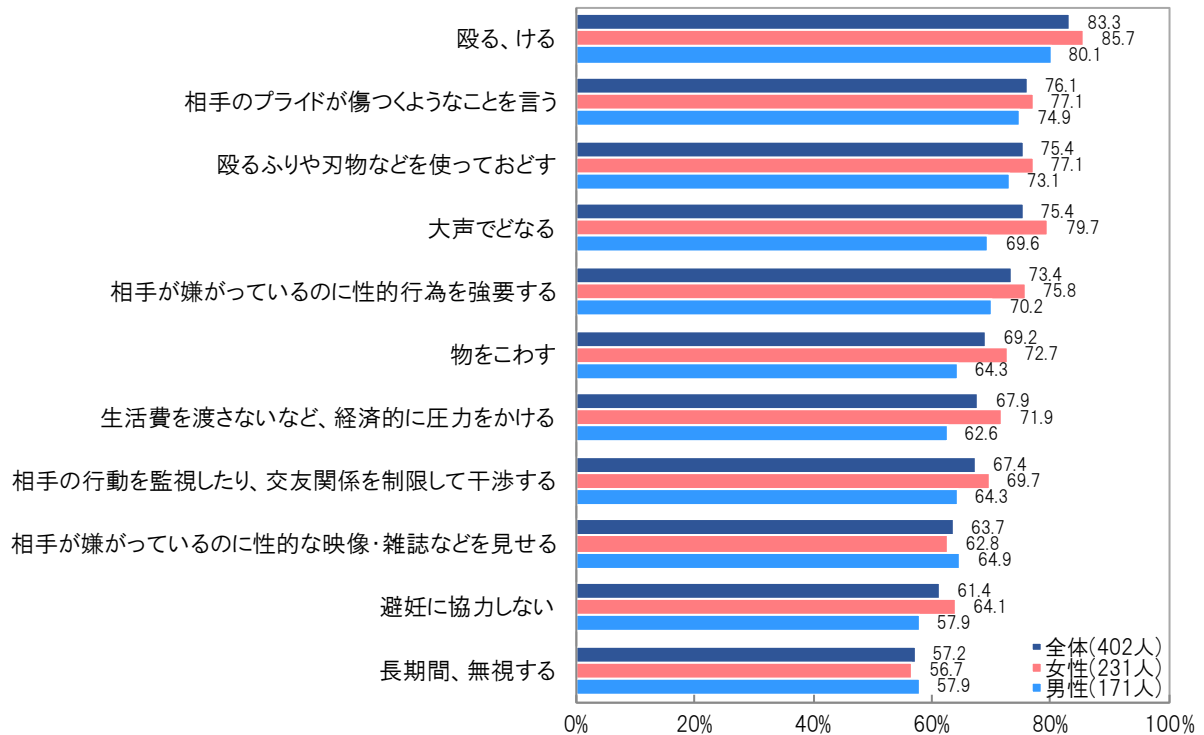


	テレビや新聞 などで問題に なっていること は知っている	見たり聞いたり したことはない	身近に被害を 受けた人がいる	身近な人から 暴力被害につ いて相談され たことがある	自分自身が 被害にあっ ている	その他	わからない
全体(549人)	81.1%	19.7%	17.5%	6.7%	1.8%	1.6%	4.7%
女性(332人)	82.8%	17.5%	18.1%	6.9%	2.7%	1.8%	3.9%
男性(217人)	78.3%	23.0%	16.6%	6.5%	0.5%	1.4%	6.0%
10代(6人)	50.0%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	33.3%
20代(46人)	80.4%	13.0%	17.4%	4.3%	0.0%	0.0%	4.3%
30代(65人)	75.4%	13.8%	18.5%	3.1%	1.5%	3.1%	7.7%
40代(79人)	74.7%	17.7%	17.7%	10.1%	1.3%	1.3%	2.5%
50代(95人)	87.4%	20.0%	15.8%	8.4%	4.2%	0.0%	1.1%
60代(136人)	86.8%	19.1%	22.1%	10.3%	0.0%	2.2%	2.9%
70代以上(122人)	78.7%	27.0%	13.9%	2.5%	3.3%	1.6%	8.2%

身近なところでのDVの有無については、男女ともに、「テレビや新聞などで問題になっていることは知っている」と答えた人の割合が最も多く、『女性』が82.8%、『男性』が78.3%と、女性が男性よりやや高い割合を示している。また、「見たり聞いたりしたことはない」と答えた人の割合は、『男性』が『女性』より5.5ポイント高く、「身近に被害を受けた人がいる」や「身近な人から暴力被害について相談されたことがある」、「自分自身が被害にあっている」と答えた人の割合は、『女性』が『男性』よりやや高い。

年齢別にみると、年齢が上がるにつれ、「見たり聞いたりしたことはない」と答えた人の割合が高くなっている。

問16 あなたが配偶者や恋人など親密な関係にある（あった）異性からの暴力（DV=ドメスティック・バイオレンス）に含まれると思うものをすべて選んでください。（複数選択、あてはまるものすべて）



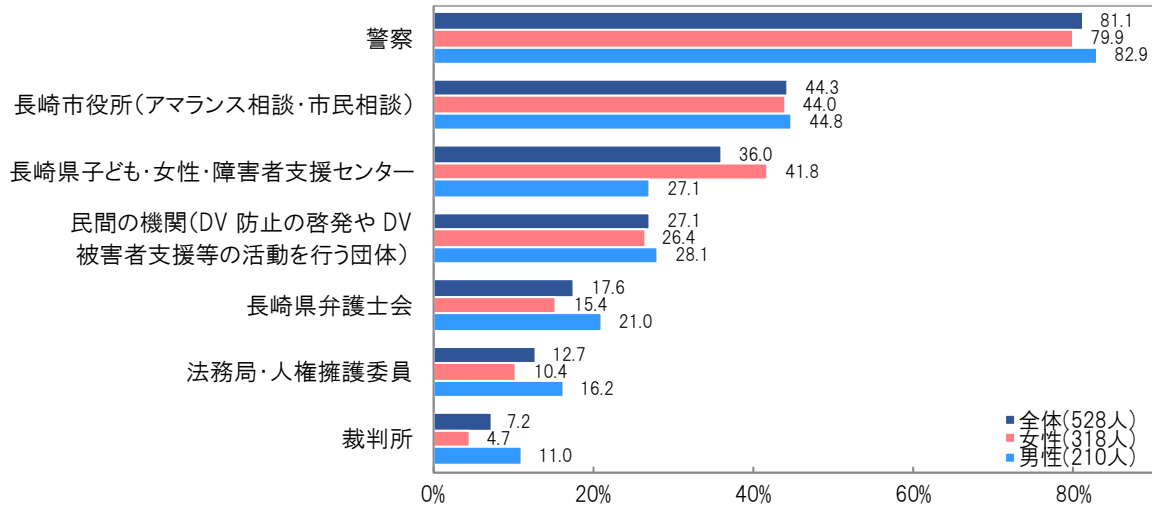
	殴る、ける	相手のプライドが傷つくようなことを言う	殴るふりや刃物などを使っておどす	大声でどなる	相手が嫌がっているのに性的行為を強要する	物をこわす	生活費を渡さないなど、経済的に圧力をかける	相手の行動を監視したり、交友関係を制限して干渉する	相手が嫌がっているのに性的な映像・雑誌などを見せる	避妊に協力しない	長期間、無視する
全体(402人)	83.3%	76.1%	75.4%	75.4%	73.4%	69.2%	67.9%	67.4%	63.7%	61.4%	57.2%
女性(231人)	85.7%	77.1%	77.1%	79.7%	75.8%	72.7%	71.9%	69.7%	62.8%	64.1%	56.7%
男性(171人)	80.1%	74.9%	73.1%	69.6%	70.2%	64.3%	62.6%	64.3%	64.9%	57.9%	57.9%
10代(6人)	100.0%	66.7%	83.3%	50.0%	100.0%	66.7%	66.7%	66.7%	83.3%	83.3%	50.0%
20代(43人)	90.7%	88.4%	86.0%	86.0%	83.7%	83.7%	72.1%	65.1%	72.1%	76.7%	51.2%
30代(59人)	94.9%	74.6%	91.5%	81.4%	86.4%	79.7%	78.0%	81.4%	78.0%	79.7%	72.9%
40代(67人)	88.1%	68.7%	82.1%	74.6%	77.6%	79.1%	73.1%	73.1%	61.2%	62.7%	50.7%
50代(74人)	90.5%	89.2%	83.8%	91.9%	79.7%	82.4%	79.7%	77.0%	75.7%	74.3%	70.3%
60代(92人)	76.1%	76.1%	65.2%	67.4%	64.1%	56.5%	60.9%	65.2%	57.6%	50.0%	59.8%
70代以上(61人)	62.3%	62.3%	49.2%	57.4%	52.5%	41.0%	45.9%	41.0%	39.3%	31.1%	34.4%

DV に該当する行為の範囲については、全体で見ると、「殴る、ける」と答えた人の割合が 83.3% と最も多く、次いで「相手のプライドが傷つくようなことを言う」（76.1%）、「殴るふりや刃物などを使っておどす」（75.4%）、「大声でどなる」（75.4%）であった。

性別で見ると、ほとんどの項目で『女性』が『男性』よりポイントが高くなっており、特に、「大声でどなる」や「生活費を渡さないなど、経済的に圧力をかける」については、約 10 ポイントの開きがあり、男女間の認識の違いがみられる。

年齢別にみると、『60代』以上は、他の年齢層に比べ全体的にポイントが低い。

問17 配偶者や恋人など親密な関係にある（あった）異性から、さまざまな暴力（DV＝ドメスティック・バイオレンス）を受けたときの相談窓口として、あなたが知っているものをすべて選んでください。（複数選択、あてはまるものすべて）



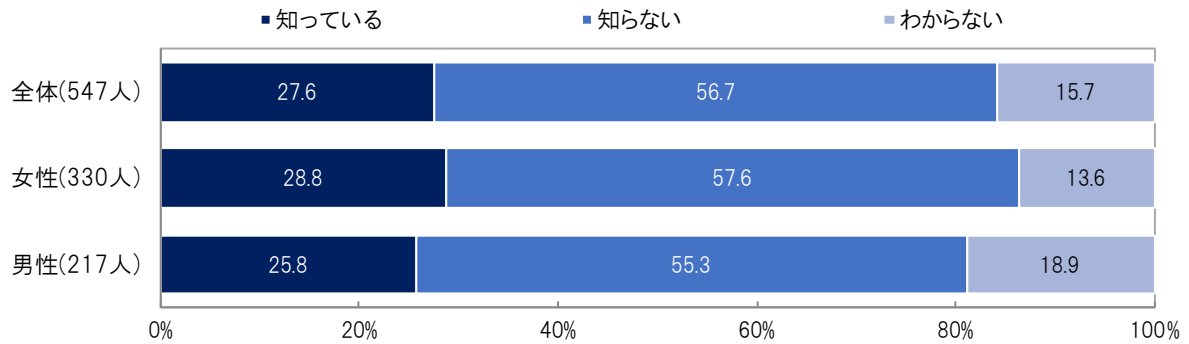
	警察	長崎市役所 (アマランス相談・市民相談)	長崎県子ども・ 女性・障害者 支援センター	民間の機関(DV 防止の啓発やDV 被害者支援等の 活動を行う団体)	長崎県弁 護士会	法務局・人権 擁護委員	裁判所	その他の 機関	知らない・ わからない
全体(528人)	81.1%	44.3%	36.0%	27.1%	17.6%	12.7%	7.2%	1.3%	11.0%
女性(318人)	79.9%	44.0%	41.8%	26.4%	15.4%	10.4%	4.7%	0.9%	10.4%
男性(210人)	82.9%	44.8%	27.1%	28.1%	21.0%	16.2%	11.0%	1.9%	11.9%
10代(6人)	50.0%	50.0%	50.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
20代(44人)	88.6%	22.7%	43.2%	36.4%	15.9%	9.1%	6.8%	2.3%	2.3%
30代(65人)	90.8%	40.0%	40.0%	38.5%	15.4%	10.8%	7.7%	3.1%	3.1%
40代(79人)	78.5%	48.1%	38.0%	34.2%	12.7%	2.5%	7.6%	0.0%	8.9%
50代(92人)	87.0%	57.6%	43.5%	31.5%	20.7%	12.0%	7.6%	2.2%	7.6%
60代(129人)	84.5%	45.0%	34.1%	20.9%	20.2%	18.6%	8.5%	0.8%	8.5%
70代以上(113人)	67.3%	40.7%	24.8%	15.0%	18.6%	16.8%	5.3%	0.9%	26.5%

DV相談窓口の認知度については、全体で見ると、「警察」と答えた人の割合が81.1%と最も多く、次いで「長崎市役所（アマランス相談・市民相談）」（44.3%）、「長崎県子ども・女性・障害者支援センター」（36.0%）であった。

性別で見ると、「長崎県子ども・女性・障害者支援センター」と答えた人の割合は、『女性』が41.8%に対し『男性』は27.1%と、14.7ポイントの差があった。

年齢別にみると、『20代』において「長崎市役所（アマランス相談・市民相談）」と答えた人の割合が22.7%と、他の年齢層より低い。

問18-1 長崎市では、配偶者や恋人など親密な関係にある（あった）異性からの様々な暴力（DV＝ドメスティック・バイオレンス）を防止するための広報・啓発を行っています。あなたはそれを知っていますか。



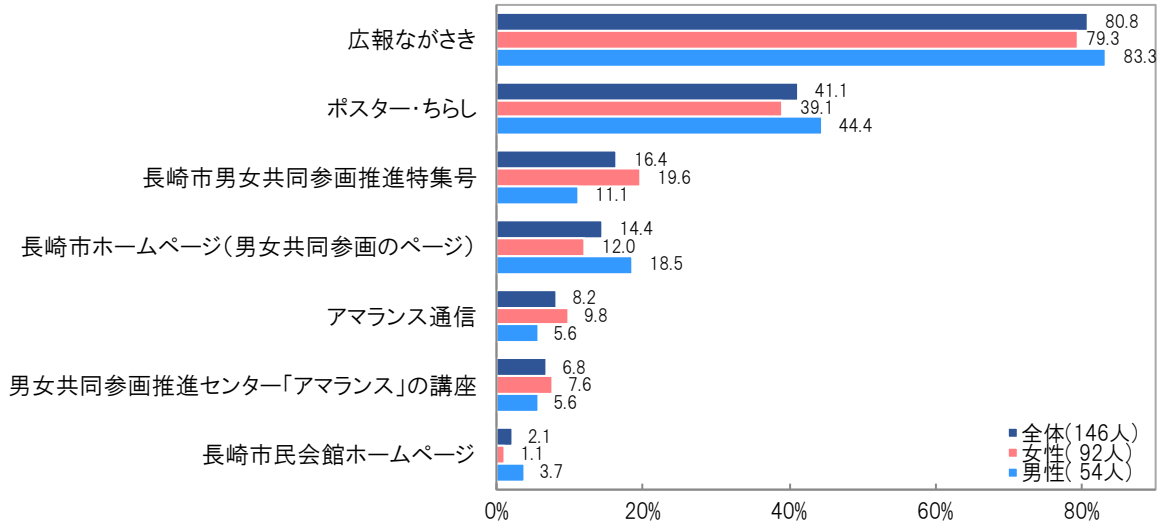
	知っている	知らない	わからない
全体(547人)	27.6%	56.7%	15.7%
女性(330人)	28.8%	57.6%	13.6%
男性(217人)	25.8%	55.3%	18.9%
10代(6人)	16.7%	50.0%	33.3%
20代(45人)	17.8%	60.0%	22.2%
30代(65人)	15.4%	69.2%	15.4%
40代(79人)	24.1%	65.8%	10.1%
50代(95人)	36.8%	49.5%	13.7%
60代(135人)	33.3%	55.6%	11.1%
70代以上(122人)	27.0%	50.0%	23.0%

長崎市によるDV防止に関する広報・啓発の認知度については、全体で見ると、「知っている」と答えた人の割合が27.6%に対し、「知らない」と答えた人の割合は56.7%であった。

性別で見ると、「知っている」と答えた人の割合は、『女性』（28.8%）が『男性』（25.8%）より3ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「知っている」と答えた人の割合は、『50代』～『60代』が他の年齢層より比較的多く、「知らない」と答えた人の割合は、『20代』～『40代』が他の年齢層より多い。

問18-2 問18-1 で「1 知っている」と答えたかたにおたずねします。どのようにしてその広報・啓発を知りましたか。（複数選択、あてはまるものすべて）



	広報ながさき	ポスター・ちらし	長崎市男女共同参画推進特集号	長崎市ホームページ(男女共同参画のページ)	アマランス通信	男女共同参画推進センター「アマランス」の講座	長崎市民会館ホームページ	その他
全体(146人)	80.8%	41.1%	16.4%	14.4%	8.2%	6.8%	2.1%	4.1%
女性(92人)	79.3%	39.1%	19.6%	12.0%	9.8%	7.6%	1.1%	4.3%
男性(54人)	83.3%	44.4%	11.1%	18.5%	5.6%	5.6%	3.7%	3.7%
10代(1人)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
20代(8人)	37.5%	50.0%	12.5%	25.0%	12.5%	0.0%	0.0%	25.0%
30代(9人)	44.4%	66.7%	0.0%	22.2%	22.2%	0.0%	0.0%	0.0%
40代(19人)	73.7%	47.4%	5.3%	15.8%	5.3%	0.0%	0.0%	5.3%
50代(35人)	88.6%	37.1%	25.7%	8.6%	8.6%	11.4%	2.9%	0.0%
60代(44人)	90.9%	34.1%	22.7%	13.6%	11.4%	6.8%	2.3%	4.5%
70代以上(30人)	83.3%	43.3%	10.0%	16.7%	0.0%	10.0%	3.3%	3.3%

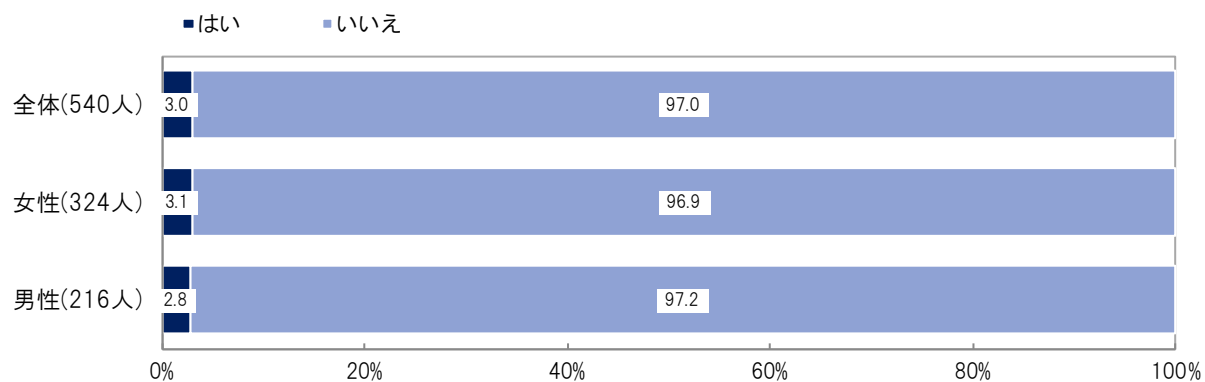
長崎市によるDV防止に関する広報・啓発について、「知っている」と答えた人に対し、どのようにして知ったかについては、全体でみると、「広報ながさき」と答えた人の割合が80.8%と最も多く、次いで「ポスター・ちらし」(41.1%)であった。

性別にみると、「長崎市男女共同参画推進特集号」を選んだ人の割合は『女性』(19.6%)が『男性』(11.1%)より8.5ポイント高いのに対し、「長崎市ホームページ(男女共同参画のページ)」を選んだ人の割合は『男性』(18.5%)が『女性』(12.0%)より6.5ポイント高い。

年齢別にみると、「広報ながさき」と答えた人の割合は、『40代』以上で高く、「ポスター・ちらし」と答えた人の割合は、『20代』～『30代』で高くなっている。

8 その他

問19 あなたは今までに、自分の体の性、心の性または性的指向（同性愛など）に悩んだことがありますか。

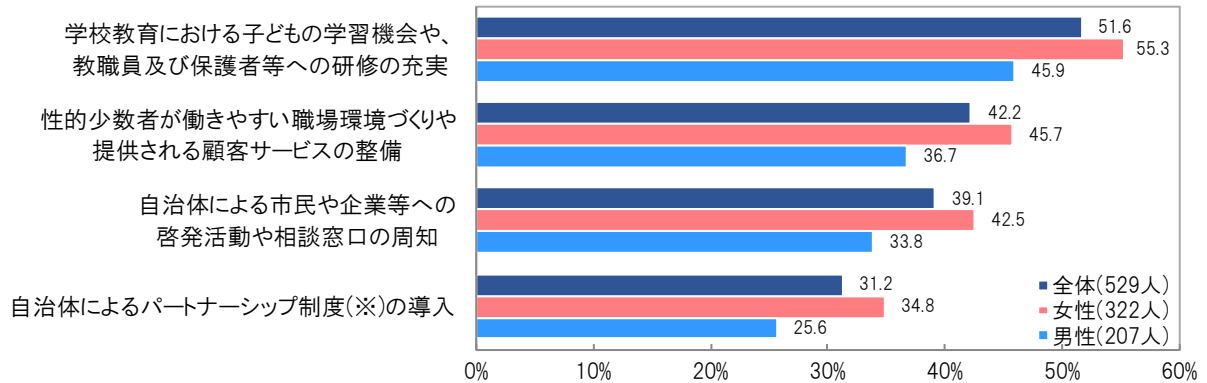


	はい	いいえ
全体(540人)	3.0%	97.0%
女性(324人)	3.1%	96.9%
男性(216人)	2.8%	97.2%
10代(6人)	16.7%	83.3%
20代(46人)	6.5%	93.5%
30代(64人)	7.8%	92.2%
40代(79人)	1.3%	98.7%
50代(92人)	3.3%	96.7%
60代(137人)	1.5%	98.5%
70代以上(116人)	0.9%	99.1%

自分の体の性、心の性または性的指向については、男女ともに、「はい」（悩んだことがある）と答えた人の割合は約3%に対し、「いいえ」（悩んだことはない）と答えた人の割合は約97%であった。

年齢別にみると、『10代』～『30代』において、「はい」（悩んだことがある）と答えた人の割合が他の年齢層よりやや多い。

問20 性的少数者の方々は周囲の理解不足によりいじめや差別を受けやすく、様々な生きづらさを抱えていると言われていますが、性的少数者の方々の生きづらさを解消するためにどのような対策が必要だと思いますか。（複数選択、あてはまるものすべて）



	学校教育における子どもの学習機会や、教職員及び保護者等への研修の充実	性的少数者が働きやすい職場環境づくりや提供される顧客サービスの整備	自治体による市民や企業等への啓発活動や相談窓口の周知	自治体によるパートナーシップ制度(※)の導入	わからない	その他
全体(529人)	51.6%	42.2%	39.1%	31.2%	25.9%	2.5%
女性(322人)	55.3%	45.7%	42.5%	34.8%	22.4%	1.6%
男性(207人)	45.9%	36.7%	33.8%	25.6%	31.4%	3.9%
10代(6人)	66.7%	50.0%	33.3%	83.3%	0.0%	0.0%
20代(45人)	53.3%	42.2%	22.2%	42.2%	22.2%	4.4%
30代(64人)	70.3%	40.6%	34.4%	37.5%	18.8%	3.1%
40代(79人)	57.0%	44.3%	40.5%	38.0%	13.9%	3.8%
50代(95人)	56.8%	52.6%	49.5%	35.8%	18.9%	3.2%
60代(133人)	52.6%	48.9%	45.1%	33.1%	24.8%	2.3%
70代以上(107人)	29.0%	23.4%	31.8%	8.4%	49.5%	0.0%

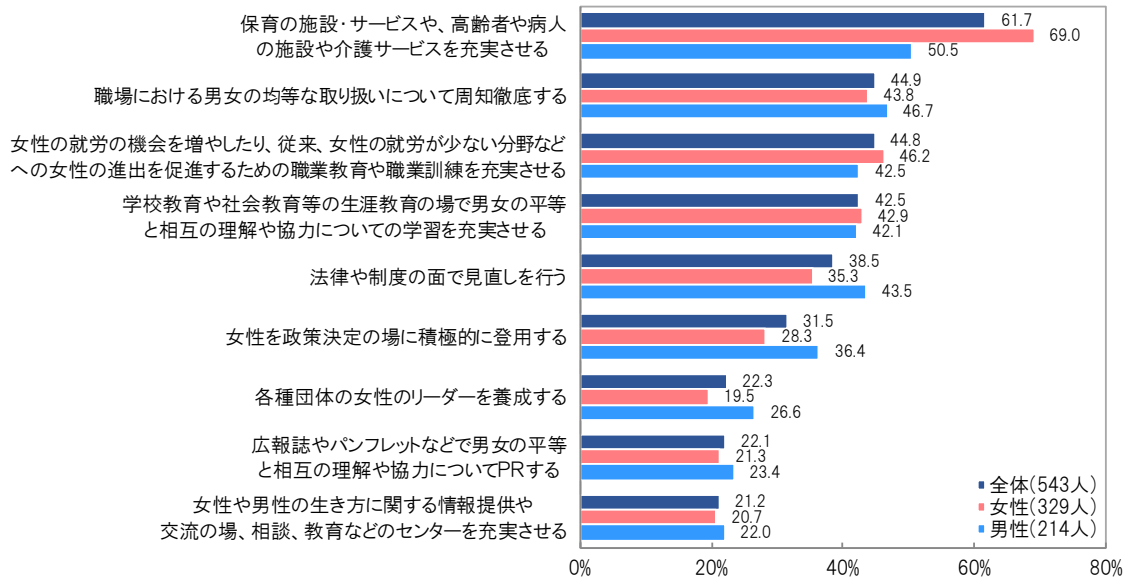
※パートナーシップ制度
法律上の男女の婚姻とは異なり、性的少数者の方々のパートナー関係(いわゆる同性カップル等)を、自治体独自に証明するもの(婚姻や相続、税金の控除等の法律上の効果は生じない)。

性的少数者の生きづらさを解消するために必要なことについては、全体で見ると、「学校教育における子どもの学習機会や、教職員及び保護者等への研修の充実」と答えた人の割合が51.6%と最も多く、次いで「性的少数者が働きやすい職場環境づくりや提供される顧客サービスの整備」(42.2%)、「自治体による市民や企業等への啓発活動や相談窓口の周知」(39.1%)であった。

性別にみると、具体的な対策を選んだ人の割合は『女性』が『男性』より9ポイント前後高い一方で、「わからない」と答えた人の割合は『男性』が『女性』より9ポイント高く、男女間の認識の違いがみられる。

年齢別にみると、『70代以上』では、具体的な対策を選んだ人の割合が他の年齢層より低く、「わからない」と答えた人の割合が高い。

問21 「男女共同参画社会」の実現に向けて、今後、行政はどのようなことに力をいれていくべきだと思いますか。（複数選択、あてはまるものすべて）



	保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実させる	職場における男女の均等な取り扱いについて周知徹底する	女性の就労の機会を増やしたり、従来、女性の就労が少ない分野などへの女性の進出を促進するための職業教育や職業訓練を充実させる	学校教育や社会教育等の生涯教育の場で男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実させる	法律や制度の面で見直しを行う	女性を政策決定の場に積極的に登用する	各種団体の女性のリーダーを養成する	広報誌やパンフレットなどで男女の平等と相互の理解や協力についてPRする	女性や男性の生き方に関する情報提供や交流の場、相談、教育などのセンターを充実させる	特にな	分らない	その他
全体(543人)	61.7%	44.9%	44.8%	42.5%	38.5%	31.5%	22.3%	22.1%	21.2%	3.9%	5.5%	0.7%
女性(329人)	69.0%	43.8%	46.2%	42.9%	35.3%	28.3%	19.5%	21.3%	20.7%	2.7%	5.8%	0.3%
男性(214人)	50.5%	46.7%	42.5%	42.1%	43.5%	36.4%	26.6%	23.4%	22.0%	5.6%	5.1%	1.4%
10代(6人)	66.7%	66.7%	50.0%	50.0%	66.7%	50.0%	50.0%	33.3%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%
20代(45人)	42.2%	33.3%	48.9%	42.2%	46.7%	20.0%	20.0%	17.8%	26.7%	6.7%	8.9%	2.2%
30代(64人)	65.6%	45.3%	40.6%	51.6%	40.6%	31.3%	20.3%	21.9%	14.1%	3.1%	3.1%	3.1%
40代(79人)	62.0%	41.8%	40.5%	35.4%	44.3%	27.8%	22.8%	16.5%	15.2%	1.3%	5.1%	0.0%
50代(94人)	68.1%	47.9%	45.7%	44.7%	42.6%	30.9%	17.0%	19.1%	22.3%	3.2%	4.3%	1.1%
60代(136人)	58.8%	51.5%	47.1%	44.9%	35.3%	36.8%	28.7%	23.5%	25.7%	0.7%	7.4%	0.0%
70代以上(119人)	64.7%	40.3%	44.5%	37.8%	29.4%	31.9%	19.3%	27.7%	21.0%	9.2%	5.0%	0.0%

行政が男女共同参画社会の実現に向けて取り組むべきことについては、全体で見ると、「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実させる」と答えた人の割合が61.7%と最も多く、次いで「職場における男女の均等な取り扱いについて周知徹底する」（44.9%）、「女性の就労の機会を増やしたり、従来、女性の就労が少ない分野などへの女性の進出を促進するための職業教育や職業訓練を充実させる」（44.8%）であった。

性別にみると、「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実させる」と答えた人の割合は『女性』（69.0%）が『男性』（50.5%）より18.5ポイント高い。一方で「法律や制度の面で見直しを行う」や「女性を政策決定の場に積極的に登用する」においては、『男性』が『女性』より約8ポイント高い。

年齢別にみると、『20代』は、「女性の就労の機会を増やしたり、従来、女性の就労が少ない分野などへの女性の進出を促進するための職業教育や職業訓練を充実させる」と答えた人の割合が最も多く、他の年齢層と異なる傾向を示している。

第3章 基礎数値

本章において、各設問の文末に示している（SA）とは単回答、（MA）とは複数回答のことである。また各表に示している（全体）は不明（無回答）を含めた構成比（%）、（除不）は不明（無回答）を除いた構成比（%）である。

1 男女共同参画に関する意識について

問1 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたはどのように思いますか。次の1～6の中から、あなたの考えにもっとも近いものを1つだけ選んでください。（SA）

項 目	件数	(全体)%	(除不)%
1 そう思う	24	4.3	4.3
2 どちらかといえばそう思う	71	12.7	12.8
3 どちらともいえない	101	18.0	18.2
4 どちらかといえばそう思わない	95	17.0	17.1
5 そう思わない	258	46.1	46.4
6 わからない	7	1.3	1.3
不明	4	0.7	
N（%ベース）	560	100	556

問2 今後、社会のあらゆる分野で、男女が対等な立場でともに参画していくためには、どのようなことが必要だと思われますか。次の1～8の中からあなたが必要だと思うものを2つまで選んでください。（MA）

項 目	件数	(全体)%	(除不)%
1 法律や制度の見直しを行い、男女が対等になるよう改めること	123	22.0	22.2
2 性別による様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること	306	54.6	55.1
3 女性の意識向上や、知識・技術を習得するなど力の向上を図ること	143	25.5	25.8
4 女性の就業・社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること	279	49.8	50.3
5 政府や企業などの重要な役職に一定の割合で女性を登用すること	94	16.8	16.9
6 特に必要なことはない	29	5.2	5.2
7 わからない	23	4.1	4.1
8 その他	21	3.8	3.8
不明	5	0.9	
N（%ベース）	560	100	555

問3 今後、男女共同参画社会を進めるために、女性が増えた方がよいと思う職業や役職などはどれですか。次の1～13の中から2つまで選んでください。（MA）

項 目	件数	(全体)%	(除不)%
1 都道府県、市（区）町村の首長	118	21.1	21.5
2 国会議員、都道府県議会議員、市（区）町村議会議員	196	35.0	35.8
3 都道府県、市（区）町村の審議会等の委員	62	11.1	11.3

4 国家公務員・地方公務員の管理職	95	17.0	17.3
5 裁判官、検察官、弁護士、医師	114	20.4	20.8
6 大学教授	10	1.8	1.8
7 企業の経営者・管理職	161	28.8	29.4
8 労働組合の幹部	41	7.3	7.5
9 農協・漁協の役員	13	2.3	2.4
10 自治会長	23	4.1	4.2
11 特にない	68	12.1	12.4
12 わからない	51	9.1	9.3
13 その他	14	2.5	2.6
不明	12	2.1	
N (%ベース)	560	100	548

問4 次の1～8の男女共同参画に関する言葉のうち、あなたが見たり聞いたりしたことがある言葉をすべて選んでください。(MA)

項 目	件数	(全体)%	(除不)%
1 男女共同参画社会	371	66.3	67.8
2 女性活躍推進法	201	35.9	36.7
3 固定的な性別役割分担	121	21.6	22.1
4 配偶者からの暴力(DV=ドメスティック・バイオレンス)	497	88.8	90.9
5 セクシュアル・ハラスメント(性的嫌がらせ)	487	87.0	89.0
6 ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)	301	53.8	55.0
7 性的少数者	356	63.6	65.1
8 見たり聞いたりしたものはない	10	1.8	1.8
不明	13	2.3	
N (%ベース)	560	100	547

2 ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)について

問5 生活の中での「家庭生活」「仕事」「地域活動」の優先度について、「1 あなたの希望・理想」と「2 あなたの現状・現実」について、それぞれA～Cの中からあなたにあてはまるものを1つ選んでください。(SA)

1 あなたの希望・理想

項 目	件数	(全体)%	(除不)%
1 家庭生活を優先	137	24.5	26.1
2 仕事を優先	10	1.8	1.9
3 地域活動を優先	1	0.2	0.2
4 家庭生活と仕事をともに優先	228	40.7	43.4
5 仕事と地域活動をともに優先	2	0.4	0.4
6 家庭生活と地域活動をともに優先	28	5.0	5.3

7 家庭生活、仕事、地域活動をいずれも優先	97	17.3	18.5
8 わからない	22	3.9	4.2
不明	35	6.3	
N (%ベース)	560	100	525

2 あなたの現状・現実

項 目	件数	(全体)%	(除不)%
1 家庭生活を優先	154	27.5	29.6
2 仕事を優先	159	28.4	30.6
3 地域活動を優先	1	0.2	0.2
4 家庭生活と仕事をともに優先	117	20.9	22.5
5 仕事と地域活動をともに優先	11	2.0	2.1
6 家庭生活と地域活動をともに優先	22	3.9	4.2
7 家庭生活、仕事、地域活動をいずれも優先	15	2.7	2.9
8 わからない	41	7.3	7.9
不明	40	7.1	
N (%ベース)	560	100	520

問6 一般的に、女性が職業を持つことについて、どのように思いますか。

次の1～8の中からあなたの考えにもっとも近いものを1つ選んでください。(SA)

項 目	件数	(全体)%	(除不)%
1 女性は職業を持たない方がよい	1	0.2	0.2
2 結婚するまでは、職業を持つ方がよい	11	2.0	2.0
3 子どもができるまでは、職業を持つ方がよい	9	1.6	1.6
4 仕事と家庭生活の両立ができるのであれば、職業をもつ方がよい	291	52.0	52.5
5 子どもができたなら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業をもつ方がよい	90	16.1	16.2
6 結婚、出産、育児にかかわらず、ずっと職業を持つ方がよい	123	22	22.2
7 わからない	11	2.0	2.0
8 その他	18	3.2	3.2
不明	6	1.1	
N (%ベース)	560	100	554

問7 育児休業取得率は、平成28年度長崎県労働実態等調査によると、女性の89.2%に対し男性は8.8%と、女性に比べて男性の制度利用はなかなか進んでいませんが、その理由としてどのようなことが考えられますか。

次の1～7の中から、あなたの考えにもっとも近いものを1つ選んでください。(SA)

項 目	件数	(全体)%	(除不)%
1 職場の理解が得られないから	229	40.9	42.3
2 昇進や昇給に影響する恐れがあるから	38	6.8	7.0
3 取得後の職場復帰への不安があるから	74	13.2	13.7
4 経済的に影響があるから	85	15.2	15.7
5 周囲に利用した男性がいないから	50	8.9	9.2

6 女性のほうが育児に向いているから	47	8.4	8.7
7 その他	18	3.2	3.3
不明	19	3.4	
N (%ベース)	560	100	541

問8 今後、男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。

次の1～13の中から必要だと思うものを2つまで選んでください。(MA)

項 目	件数	(全体)%	(除不)%
1 男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと	158	28.2	28.9
2 男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと	13	2.3	2.4
3 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること	211	37.7	38.6
4 年配者やまわりの人が夫婦間における家事等の役割分担について、当事者の考え方を尊重すること	80	14.3	14.6
5 社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についての評価を高めること	150	26.8	27.4
6 労働時間短縮や休暇制度、柔軟な勤務制度の普及により、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること	213	38.0	38.9
7 男性が家事や子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと	72	12.9	13.2
8 国や自治体などの研修等により、男性の家事や子育て、介護などの技能を高めること	29	5.2	5.3
9 男性が子育てや介護、地域活動を行うための、仲間(ネットワーク)づくりをすすめること	35	6.3	6.4
10 家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること	36	6.4	6.6
11 特に必要なことはない	8	1.4	1.5
12 わからない	11	2.0	2.0
13 その他	8	1.4	1.5
不明	13	2.3	
N (%ベース)	560	100	547

3 家庭生活の中での男女共同参画について

問9 現在ご結婚されているかた(事実婚を含む)におたずねします。

あなたの家庭では、実際にどなたが次の1～9までの役割を行っていますか。

それぞれア～オの中から当てはまるもの1つを選んでください。(SA)

1. 掃除

項 目	件数	(全体)%	(除不)%
1 おもに妻が行っている	249	67.1	68.8
2 おもに夫が行っている	13	3.5	3.6
3 夫婦共同で行っている	86	23.2	23.8

4 夫婦以外の人が行っている	8	2.2	2.2
5 どれにも当てはまらない	6	1.6	1.7
不明	9	2.4	
N (%ベース)	371	100	362

2. 洗濯

項 目	件数	(全体)%	(除不)%
1 おもに妻が行っている	274	73.9	76.3
2 おもに夫が行っている	25	6.7	7.0
3 夫婦共同で行っている	51	13.7	14.2
4 夫婦以外の人が行っている	3	0.8	0.8
5 どれにも当てはまらない	6	1.6	1.7
不明	12	3.2	
N (%ベース)	371	100	359

3. 食事の支度、あとかたづけ

項 目	件数	(全体)%	(除不)%
1 おもに妻が行っている	266	71.7	73.5
2 おもに夫が行っている	11	3.0	3.0
3 夫婦共同で行っている	74	19.9	20.4
4 夫婦以外の人が行っている	3	0.8	0.8
5 どれにも当てはまらない	8	2.2	2.2
不明	9	2.4	
N (%ベース)	371	100	362

4. 育児（子どもがいる人のみ）

項 目	件数	(全体)%	(除不)%
1 おもに妻が行っている	101	31.7	52.1
2 おもに夫が行っている	0	0.0	0.0
3 夫婦共同で行っている	74	23.2	38.1
4 夫婦以外の人が行っている	1	0.3	0.5
5 どれにも当てはまらない	18	5.6	9.3
不明	125	39.2	
N (%ベース)	319	100	194

5. 子どもの教育（子どもがいるひとのみ）

項 目	件数	(全体)%	(除不)%
1 おもに妻が行っている	77	24.1	39.7
2 おもに夫が行っている	6	1.9	3.1
3 夫婦共同で行っている	92	28.8	47.4
4 夫婦以外の人が行っている	3	0.9	1.5
5 どれにも当てはまらない	16	5.0	8.2

不明	125	39.2	
N (%ベース)	319	100	194

6. 家族の介護や病人の世話

項 目	件数	(全体)%	(除不)%
1 おもに妻が行っている	111	29.9	37.1
2 おもに夫が行っている	13	3.5	4.3
3 夫婦共同で行っている	71	19.1	23.7
4 夫婦以外の人が行っている	9	2.4	3.0
5 どれにも当てはまらない	95	25.6	31.8
不明	72	19.4	
N (%ベース)	371	100	299

7. 家計の管理

項 目	件数	(全体)%	(除不)%
1 おもに妻が行っている	247	66.6	69.6
2 おもに夫が行っている	32	8.6	9.0
3 夫婦共同で行っている	68	18.3	19.2
4 夫婦以外の人が行っている	0	0.0	0.0
5 どれにも当てはまらない	8	2.2	2.3
不明	16	4.3	
N (%ベース)	371	100	355

8. 地域活動（自治会・PTA 活動など）への参加

項 目	件数	(全体)%	(除不)%
1 おもに妻が行っている	158	42.6	45.7
2 おもに夫が行っている	52	14.0	15.0
3 夫婦共同で行っている	79	21.3	22.8
4 夫婦以外の人が行っている	5	1.3	1.4
5 どれにも当てはまらない	52	14.0	15.0
不明	25	6.7	
N (%ベース)	371	100	346

9. 家庭問題における最終的な決定

項 目	件数	(全体)%	(除不)%
1 おもに妻が行っている	32	8.6	8.9
2 おもに夫が行っている	113	30.5	31.5
3 夫婦共同で行っている	204	55.0	56.8
4 夫婦以外の人が行っている	2	0.5	0.6
5 どれにも当てはまらない	8	2.2	2.2
不明	12	3.2	
N (%ベース)	371	100	359

4 職業生活の中での男女共同参画について

問10 職業をお持ちのかたにおたずねします。

あなたは、今の職場の仕事内容や待遇の面で、性別を理由とした男女間の差があると思いますか。次の1～11の中からあてはまるものを2つまで選んでください。（MA）

項 目	件数	(全体)%	(除不)%
1 差はない	150	45.3	50.0
2 正社員の中でも賃金に差がある	34	10.3	11.3
3 昇進、昇格に差がある	42	12.7	14.0
4 能力が正當に評価されない	38	11.5	12.7
5 性別を理由に補助的な仕事しかやらせてもらえない	10	3.0	3.3
6 役員・管理職等への登用が性別で偏っている	30	9.1	10.0
7 結婚、妊娠・出産などがあると仕事を続けにくい雰囲気がある	28	8.5	9.3
8 性別により、定年まで勤め続けにくい雰囲気がある	5	1.5	1.7
9 能力や技能向上の教育・訓練を受ける機会が少ない	16	4.8	5.3
10 わからない	35	10.6	11.7
11 その他	21	6.3	7.0
不明	31	9.4	
N (%ベース)	331	100	300

問11 すべてのかたにおたずねします。性別にかかわらず、各自の能力を發揮していきいきと働くためには、どのようなことが必要だと思いませんか。

次の1～11の中から、あなたが必要だと思うものを2つまで選んでください。（MA）

項 目	件数	(全体)%	(除不)%
1 同じ価値のある仕事については、パート・正社員で差をつけずに同じ賃金にする	199	35.5	36.7
2 短時間勤務制度など柔軟な勤務制度を整備し、地域活動や家庭生活などの時間を確保できる仕組みをつくる	194	34.6	35.8
3 職場の意思決定の場に女性を積極的に参加させる	69	12.3	12.7
4 お茶くみ、コピーとりなど補助的な仕事は、男女の別なく行う	81	14.5	14.9
5 育児休業制度や介護休業制度を男性・女性ともに取得しやすい環境を整える	200	35.7	36.9
6 職場で、セクシュアル・ハラスメント防止の人権教育を実施する	33	5.9	6.1
7 昇給・昇格の条件となる教育・研修などは男性・女性の区別なく平等に受けられるようにする	145	25.9	26.8
8 企業・事業所に対する男女共同参画についての広報・啓発を積極的に行う	25	4.5	4.6
9 特にない	27	4.8	5.0
10 わからない	16	2.9	3.0
11 その他	7	1.3	1.3
不明	18	3.2	
N (%ベース)	560	100	542

5 地域活動などでの男女共同参画について

問12 あなたが参加している地域活動（自治会、PTA活動など）での現状について、次の1～10の中から、あてはまるものをすべて選んでください。（MA）

項 目	件数	(全体)%	(除不)%
1 催し物の企画など、重要なことを決定する機会に女性が少ない	64	11.4	12.6
2 会議や行事などの準備や片付け等は、女性がやる慣行がある	111	19.8	21.9
3 団体の会長に男性がつき、女性は補助的役職につく傾向がある	185	33.0	36.5
4 女性が発言しにくい雰囲気がある	37	6.6	7.3
5 女性が役員につきたがらない	142	25.4	28.0
6 日常の活動に男性の参加が少ない	146	26.1	28.8
7 女性が少ないため歓迎される	8	1.4	1.6
8 女性のほうが積極的で活発である	68	12.1	13.4
9 特に男女差はない	129	23.0	25.4
10 その他	56	10.0	11.0
不明	53	9.5	
N（%ベース）	560	100	507

問13 女性が自治会長などの地域活動における役職についたり、活動の意思決定の場へ参画していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。

次の1～7の中から、あなたが必要だと思うものを2つまで選んでください。（MA）

項 目	件数	(全体)%	(除不)%
1 女性が役職につくことに対する女性自身の抵抗感をなくすこと	168	30.0	31.0
2 女性が役職につくことに対する男性の抵抗感をなくすこと	204	36.4	37.6
3 女性が役職につくことに対する必要性についての啓発や情報提供、研修等を行うこと	70	12.5	12.9
4 女性が役職につくことに対して、周囲の人の支援や協力が得られるようにすること	323	57.7	59.6
5 特に必要なことはない	41	7.3	7.6
6 わからない	69	12.3	12.7
7 その他	8	1.4	1.5
不明	18	3.2	
N（%ベース）	560	100	542

6 防災対策における男女共同参画について

問14 大規模な災害時へ備えるには、女性の視点での意見も必要となります。今後、男女がともに安心・安全な防災体制を整えるためには、どのような取り組みが必要だと思いますか。

次の1～10の中から、あなたが必要だと思うものを2つまで選んでください。(MA)

項 目	件数	(全体)%	(除不)%
1 防災関係者に対する男女共同参画の意識づくり	126	22.5	23.4
2 防災に関する計画に女性の視点からの意見を反映させる	149	26.6	27.6
3 女性の意見を反映させるための仕組みづくりや防災会議の委員への女性の積極的な登用	130	23.2	24.1
4 防災に関わる職域への女性の参画拡大や女性リーダーの育成	96	17.1	17.8
5 防災に関する研修会などの学習機会の提供	97	17.3	18.0
6 男女がともに安全・安心に利用できる避難所運営マニュアルの作成	217	38.8	40.3
7 災害時の相談窓口体制の確立	104	18.6	19.3
8 特に必要なことはない	3	0.5	0.6
9 わからない	40	7.1	7.4
10 その他	2	0.4	0.4
不明	21	3.8	
N (%ベース)	560	100	539

7 男女共同参画を阻害する暴力について

問15 あなたは、配偶者や恋人など親密な関係にある(あった)異性からの暴力(DV=ドメスティック・バイオレンス)や、その被害について、見たり聞いたりしたことがありますか。

次の1～7の中から、あてはまるものをすべて選んでください。(MA)

項 目	件数	(全体)%	(除不)%
1 身近に被害を受けた人がいる	96	17.1	17.5
2 身近な人から暴力被害について相談されたことがある	37	6.6	6.7
3 テレビや新聞などで問題になっていることは知っている	445	79.5	81.1
4 見たり聞いたりしたことはない	108	19.3	19.7
5 自分自身が被害にあっている	10	1.8	1.8
6 その他	9	1.6	1.6
7 わからない	26	4.6	4.7
不明	11	2.0	
N (%ベース)	560	100	549

問16 次の1～11の中から、あなたが配偶者や恋人など親密な関係にある（あった）異性からの暴力（DV＝ドメスティック・バイオレンス）に含まれると思うものをすべて選んでください。（MA）

項 目	件数	(全体)%	(除不)%
1 殴る、ける	335	59.8	83.3
2 殴るふりや刃物などを使っておどす	303	54.1	75.4
3 相手が嫌がっているのに性的行為を強要する	295	52.7	73.4
4 避妊に協力しない	247	44.1	61.4
5 相手が嫌がっているのに性的な映像・雑誌などを見せる	256	45.7	63.7
6 長期間、無視する	230	41.1	57.2
7 相手の行動を監視したり、交友関係を制限して干渉する	271	48.4	67.4
8 相手のプライドが傷つくようなことを言う	306	54.6	76.1
9 大声でどなる	303	54.1	75.4
10 物をこわす	278	49.6	69.2
11 生活費を渡さないなど、経済的に圧力をかける	273	48.8	67.9
不明	158	28.2	
N（%ベース）	560	100	402

問17 次の1～9の中から配偶者や恋人など親密な関係にある（あった）異性から、さまざまな暴力（DV＝ドメスティック・バイオレンス）を受けたときの相談窓口として、あなたが知っているものをすべて選んでください。（MA）

項 目	件数	(全体)%	(除不)%
1 警察	428	76.4	81.1
2 法務局・人権擁護委員	67	12.0	12.7
3 裁判所	38	6.8	7.2
4 長崎県弁護士会	93	16.6	17.6
5 民間の機関（DV防止の啓発やDV被害者支援等の活動を行う団体）	143	25.5	27.1
6 長崎県子ども・女性・障害者支援センター	190	33.9	36.0
7 長崎市役所（アマランス相談・市民相談）	234	41.8	44.3
8 その他の機関	7	1.3	1.3
9 知らない・わからない	58	10.4	11.0
不明	32	5.7	
N（%ベース）	560	100	528

問18-1 長崎市では、配偶者や恋人など親密な関係にある（あった）異性からの様々な暴力（DV＝ドメスティック・バイオレンス）を防止するための広報・啓発を行っていますが、あなたはそれを知っていますか。次の1～3の中からあてはまるものを1つ選んでください。（SA）

項 目	件数	(全体)%	(除不)%
1 知っている	151	27.0	27.6
2 知らない	310	55.4	56.7
3 わからない	86	15.4	15.7
不明	13	2.3	
N（%ベース）	560	100	547

問18-2 問18-1 で「1 知っている」と答えたかたにおたずねします。

どのようにしてその広報・啓発を知りましたか。

次の1～8の中から当てはまるものをすべて選んでください。（MA）

項 目	件数	(全体)%	(除不)%
1 広報ながさき	118	78.1	80.8
2 長崎市男女共同参画推進特集号	24	15.9	16.4
3 長崎市ホームページ（男女共同参画のページ）	21	13.9	14.4
4 男女共同参画推進センター「アマランス」の講座	10	6.6	6.8
5 長崎市民会館ホームページ	3	2.0	2.1
6 アマランス通信	12	7.9	8.2
7 ポスター・ちらし	60	39.7	41.1
8 その他	6	4.0	4.1
不明	5	3.3	
N（%ベース）	151	100	146

8 その他

問19 あなたは今までに、自分の体の性、心の性または性的指向（同性愛など）に悩んだことがありますか。次の1～2の中からあてまるものを1つ選んでください。（SA）

項 目	件数	(全体)%	(除不)%
1 はい	16	2.9	3.0
2 いいえ	524	93.6	97.0
不明	20	3.6	
N（%ベース）	560	100	540

問20 性的少数者の方々は周囲の理解不足によりいじめや差別を受けやすく、様々な生きづらさを抱えていると言われていますが、性的少数者の方々の生きづらさを解消するためにどのような対策が必要だと思いますか。

次の1～6の中から、あなたが必要だと思うものをすべて選んでください。（MA）

項 目	件数	(全体)%	(除不)%
1 自治体による市民や企業等への啓発活動や相談窓口の周知	207	37.0	39.1
2 自治体によるパートナーシップ制度の導入	165	29.5	31.2
3 学校教育における子どもの学習機会や、教職員及び保護者等への研修の充実	273	48.8	51.6
4 性的少数者が働きやすい職場環境づくりや提供される顧客サービスの整備	223	39.8	42.2
5 わからない	137	24.5	25.9
6 その他	13	2.3	2.5
不明	31	5.5	
N（%ベース）	560	100	529

問21 「男女共同参画社会」の実現に向けて、今後、行政はどのようなことに力をいれていくべきだと思いますか。次の1～12の中から、あてはまるものをすべて選んでください。（MA）

項 目	件数	(全体)%	(除不)%
1 法律や制度の面で見直しを行う	209	37.3	38.5
2 女性を政策決定の場に積極的に登用する	171	30.5	31.5
3 各種団体の女性のリーダーを養成する	121	21.6	22.3
4 職場における男女の均等な取り扱いについて周知徹底する	244	43.6	44.9
5 女性の就労の機会を増やしたり、従来、女性の就労が少ない分野などへの女性の進出を促進するための職業教育や職業訓練を充実させる	243	43.4	44.8
6 保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実させる	335	59.8	61.7
7 学校教育や社会教育等の生涯教育の場で男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実させる	231	41.3	42.5
8 女性や男性の生き方に関する情報提供や交流の場、相談、教育などのセンターを充実させる	115	20.5	21.2
9 広報誌やパンフレットなどで、男女の平等と相互の理解や協力についてPRする	120	21.4	22.1
10 特になし	21	3.8	3.9
11 分からない	30	5.4	5.5
12 その他	4	0.7	0.7
不明	17	3.0	
N (%ベース)	560	100	543

第4章 記述データ

問 22 長崎市で「男女共同参画社会」を実現するため、あなたのアイデアやご意見などをお聞かせください。

- ・今のままで良いと思います。私の男友だちは私の父より男女平等の考えがあると思うので、このままいけば、男女平等が根付くと思います。(女性・20代)

- ・全体のアンケートを受けての印象ですが、女性は「決定権」が欲しいのですか？積極的に女性を政策決定の場に登用する、役職につけるとありますが、「女性だから採用された」ことに納得されるのですか？そういうことではないと思います。決定権を持つ立場である以上責任はとらざるをえません。役職についている男性で、毎日薬を飲んでいて、心臓が肥大化する者(極度の重圧)様々な人を知っています。部下の責任を負い、理不尽な要求を受ける立場であることを理解しているのでしょうか。役職に就きたくて就いた人ばかりではないです。あまり数字の上での男性女性比でしかみていない様な印象を受けました。ウチの会社では実力あれば男性女性関係ない為、他社様のことは分からないですが。(男性・30代)

- ・男女共同参画について発言力のある著名人に長崎市の「大使」になってもらい、男女共同参画に係る情報発信や周知徹底に取り組んでもらう。(男性・30代)

- ・このようなアンケートや選挙投票が自分の考えを社会に反映させるためにどのくらい重要であるかを義務教育で教えると良いのでは。(女性・20代)

- ・むずかしい。(男性・70代以上)

- ・国→県→市 規模が小さくなるほど、昭和(世代)の人が多くて、風習、慣習により女性の活躍がはばまれやすいと考えます。(女性・40代)

- ・「男女共同参画社会」という言葉が一人歩き気味に利用されている。問題は、主旨に見合う中身の改革が求められる。単純に女性の役職・リーダー等の枠を増やすだけでは意味がない。女性の多面的な参画は重要だが、それに対応する能力、資質の向上も求められるので、甘い運用面だけでの参画社会では意味がない。女性を登用されやすい部門から多用していくべきと思う。(女性・70代以上)

- ・これからの未来のために、主流となる考え方をもつ若者の社会進出を加速させ、支援する。男女差別は年配者に多く、若い世代のジェンダーレス思想は広まっている。「男女共同参画社会」の実現に一番必要なのは、若い世代への手厚いサポートである。若い世代が進出することで、社会はより良くなる。問題は年配者にある。若者にとって、もっと暮らしやすくしてほしい。男女とも、でないと出てしまう。(男性・20代)

- ・女性の方をもっと尊重していくこと。(男性・10代)

- ・男性が男性として、女性が女性としての本来の在り方を見つめ、その人間性を尊重し合える社会であってほしいものだと思います。男性の特有性と女性の特有性は、身体的構造からして異なる。よって、おのずとおこなっていかねばならないことは、異なって来て当然であると考えます。ひとつの職種にしても男性が手掛けた内容と女性が手掛けたことは違いが現われて来る。男性でなければ発想し得ない事柄、又、女性だから出来る事柄が生じて来る…。男女共同は本来在るべき姿の男性、女性として確立された意識の上に成り立つものではないかと思われま。男性を支えながらも、決して女性の立場が低くなるものではなく、その女性の支えが無ければ、男性も成り立たない。男性は男性らしく雄々しく、女性は女性らしく慎ましく在るべきかと願います。(女性・60代)

- ・母親部会(PTA)、交通安全母の会など「母親」はこうあるべきといった母限定の集まり、団体活動を無くす。(女性・40代)

-
- ・ 市職員の男女の構成比は現在如何ですか。万が一オープンでなければ採用（新規）期にバランスをとっていくようにしては。(男性・70代以上)
-
- ・ まずはトップが示すことで世間は変わる。熊本市議の緒方さんは勇気がある！市議には子どもをあずける場が充実していますか？ 県庁が開かれた建物になったのに、どこにも保育所がない。まず県庁で働く女性が県庁内の保育所にあずけて働きやすい環境にあることを示すべき。病院には、少しずつ院内保育所ができています。長崎のトップよ、頑張ってください。(女性・40代)
-
- ・ 短時間勤務や在宅勤務（テレワークなど）を紹介する。女性の社会進出に対する男性の理解を進めるため、職場への出前講座をおこなう。(男性・30代)
-
- ・ とにかくその人の気持ちになることだと思う。なにごとにも愛情を!!(女性・60代)
-
- ・ このアンケートの随所にそもそも男女を差別した発想の方が作成したと思われる文が見られ、大変腹立たしい。このようなアンケートだけで男女の平等性や共生社会の崇高な理念が測定できるとは到底思えません。今一度、この作成者の方々が「男女とは何なのか」をしっかりと見て考えて、行うべきアンケートであるべきと思われる。(男性・20代)
-
- ・ 『つぶやきです』子供の自立により、それまで、家事、育児に専念していた時間が空白になった50代、それも55歳です。今後は老後のためにも仕事をして、社会ともつながりたいし、金銭も得たいと思いつつ、自分がしたい職、できる職は何？ 家庭も大事にしたいけど、年金を充実させるためにも健康保険料支払いのためにも、社会保障が充実した職場に雇用されたいと思いつつも、長年社会から離れていたため仕事の責任が負えるのかという不安、あれこれ考えてしまう…働く意志はあるが、そんな不安を抱えた中高年を優しく受け入れてくれる企業を探したい。(女性・50代)
-
- ・ 長崎県は男性優位の感覚が根強く残っている様に思える。能力は男女関係なく社会に生かすべきと思う。但し、生かし方も適材適所で使われなければいけないと思うので、個人の能力（スキル）を上げるための教育、学習がとても大切ではないかと考える。子ども達の教育レベルを上げてほしい。(女性・60代)
-
- ・ 学校などでの講演で子どもたちに理解してもらい、その時に広報誌などを配布し親たちにも認識してもらえると、意識し何らかの取り組みにつながるのでは…(女性・30代)
-
- ・ 保育所の施設に重点。保育士の人格（子供に影響）。(女性・70代以上)
-
- ・ 男女共同参画社会の実現のため、「機会の均等」に向けた取り組みは早急に進めるべきと考えます。しかしながら、「結果の均等」については長い時間をかけて進めていただきたいと強く願います。「結果の均等」を短期的に達成しようとした場合、現に女性が少ない職場等においては、逆に男性が男性であるという理由により活躍の機会を失うという事態が発生しかねません。男女共同参画社会の理念には心から賛同しますが、結果を急ぎすぎることがないようにご配慮いただきたいと切に願っております。(男性・20代)
-
- ・ 委員等に積極的に若い女性を登用する。(女性・40代)
-
- ・ 男女に肉体的区別がある以上、全てを同等にというわけにはいかないと思う。互いの特徴を生かし、補完するのが良いと思う。もちろん、性的少数者や、障害のある人も含めて。まずは、市の職員の中で、多種多様な代表者交流会を開いてはどうでしょう。(男性・50代)
-
- ・ 最終的には男性と女性の気持ちの持ち様だと思います。職場内ではまだ、女性が表へ出たがらない傾向があるので、私は、後ろから手助けをする様にはしています。昭和の前半世代は、どうしても女性が正面に立って色んなことを行うのに、とまどいがある様ですが、近頃はだいぶ変わってきた様に思いますが…。(男性・50代)
-

・ 女性が社会に出て、活躍することはすばらしいし大切です。機会を拡大すべきと考えます。しかし社会の側からも女性の持つ甘え（行動するにあたっての打算やすまさ）を認めさせず、責任者の行動、主張には社会に対する義務や責任が表裏についてくることにも、長期スパンでの教育や（社会的な）しつけが必要かと考えます。すぐ「女性だから」と逃げを打つ者が多い。責任ある立場になっても、都合が悪くなると逃げや放棄する。また自分の都合で全てをこなさず、えり好みする。他面では力ある立場になると、グループ（自分の与党）を作りたがる。区分けして自分が好まぬ者は不利に扱う。狭小なえこひいきをして恥じない。こうした気まぐれの行動を女性だから許される。女性がしているのだから周りが協力して助け続けなければならない、的な甘えが社会的に解決されない限り、男女の同権は（同じ義務を果たさないなら）達成されまいかと思います。協力しても裏切られたり、全体のことは考えてくれなかったことや、すぐに与党を作り一部だけのことで決定し動くケースは何回も経験あり。責任と義務の教育が必要。（男性・60代）

・ 区別は必要(男性・50代)

・ 女性が男性と同等に働きたいと思うのなら、女性は女性だからという甘えを持たないこと。男女はどうしても体力的・思想的に違いがあるので、分野には限りがあるのでは？(女性・70代以上)

・ 20代学生です。行政の言う「男女共同参画社会の実現」とは、どうなることを指しているのでしょうか。幼少の頃から男女平等と言われてきた世代で、仕事をする中で（あくまでバイトですが）女性が上に立っても何も思わないし、その人のことを尊敬できれば男女は関係ないと思っています。なので、問13の意味はそもそもよくわかりません。私たちの世代は男が上で女が下という風潮はもうないと思うので、世代交代をするのが一番手っ取り早いと思います。（男性・20代）

・ 結婚後、主婦業となり仕事（収入を得る）をすることなく60代となりました。自分の仕事を大切に思っていますが、働きに出るチャンスを得ず、チャレンジすることなく今に至ったのが心残りです。今は介護の日々、自分の時間と心のゆとりを見いだせません。（女性・60代）

・ 求人等で育児休業ありというのはよくあるが、介護休業はなしというのが多い。私も親の介護をし、自分も介護士という立場だった為、職場の仲間や上司の協力を得られたからこそ介護をする事ができましたが、介護休業はなく何かあると、有休を使うしかありませんでした。家族様の中には息子様が親の介護をされている所もあります。職場や事業所にもよると思うのですが、できれば介護休業について考えて頂ければと思います。（女性・50代）

・ いまだに男尊女卑の傾向がある。能力もないのに偉そうにしている男性。口先だけの女性も居られます。本当に男性と女性が平等になるには、お互いに思いやりを持って尊敬し合わない無理でしょうね。口先だけでは分かり合えないと思います。お互い愛する事です。（男性・60代）

・ これまで自分の考えをまとめて文にするという機会がなく、今の教育がどうなっているのかわかりませんが、私達の世代は先生の授業を一方向的に受けるだけだったので自分の意見をまとめて言える能力がないように感じます。もっと自分の意見をちゃんと言えよう教育をして欲しいと思います。質問に対する答えではなく申し訳ありません。男女共同参画についてあまり考えていないということに気づかされました。（女性・60代）

・ 女性が働く事はいいと思いますが、乳飲み子を人に預けて働かないといけない現実をどうにかできないのでしょうか。親の温かさを知らない子供が成長し変質的な大人が増えているように思います。ご主人の給料が少ないのか、育児のための費用が必要なのか、その援助を考えてくださればいいのかと思います。それから男女共同の仕事を経一杯やっていくことはできないのでしょうか。すみません、答えになっていませんが…。（女性・50代）

・ 1) 本人が知識を高める必要があると思う 2) 知識がないのに努力をしない人が多い 3) 長崎市の職員の方も知識をまだまだ持ってほしい！相談に行っても…？残念です！（男性・60代）

・ 男性も女性もやる気があればそれなりの動きをすると思う。それでも平等な評価を得られない場合に相談に乗ればいい。（男性・40代）

-
- ・ 男女問わず偏見のない社会作りをお願い致します。(男性・60代)
-
- ・ 法律を変える。(男性・30代)
-
- ・ まずは行政による女性管理職の登用を増やし、社会へアピールしてほしいです。(女性・40代)
-
- ・ 3人の両親の介護などで余裕がありません。申し訳ありません。(女性・60代)
-
- ・ 女性の社会進出や活躍を妨げたりしてはならない。そこを教育するだけと思われる。(男性・50代)
-
- ・ 小さなうちから学校などの授業でもいろいろな考え方や色々な人がいるということを少しずつ伝えていければ後が変わっていけるのでは。(女性・40代)
-
- ・ 周りに流されず、決まった事は必ず実行してくれる組織やリーダーが必要(男性・50代)
-
- ・ 今様々な問題が起きているのは女性がいろいろな事に必ず出すぎるから！男が働き、女性が家庭を守る(全部ではありません) 例) 少子化、男の仕事が減る、結婚する人が減る、女性が独り立ちして結婚しない、子供を作らない 世の中のバランスが崩れています！(男性・50代)
-
- ・ 社会生活する上で法律や制度の見直し、充実を行うよう市民のみんなが意識していく必要があると思います。(男性・60代)
-
- ・ 最近女性登用を叫ばれるようになったことで、無理矢理に女性を管理職等に就けて、それで達成したというような風潮が目につきます。本当はそうではなく、子供の頃から男女平等に、そして個々の特性や能力を活かせるような社会づくりができればいいなと思います。(女性・50代)
-
- ・ ・前よりは実現されているから良いと思う。・女性の社会進出ばかりを重視させられて、男性が不利になる機関も多少はあると思うので、平等という意味で女性の法律(?)だけではなく、男性についても見直した方が良いと思う。・主婦を支える制度ももっと必要だと思う。(働きたくない女性もあり、その場合、男性が家庭を支えなければならない。) (女性・20代)
-
- ・ 男女それぞれが様々な活動ができるよう制度やあり方を考え、個々の得意分野を尊重し、能力を発揮できる社会になったら良いと思います。(女性・50代)
-
- ・ 長崎市が平成23年度から「男女共同参画計画」を策定し、取り組んでいることを初めて知った。もっとアピールしてはどうですか。(男性・60代)
-
- ・ 長崎市主催の行事には、必ず女性のリーダーを任命し、スピーチをしていただく。長崎市役所の各課長は男と女同数になるように配置する。(男性・50代)
-
- ・ 女性が、これまで男性が多かった職種に就くだけでなく、男性が、これまで女性が多かった職種に就きやすくすることも大切だと思います。(保育士、看護師など) 知り合いの男性が「保育士になりたいと思ったけど、賃金が低く、将来家族を養っていけないと思い、他の道に進むことにした」と言っていました。賃金面や環境面で男女一緒に働きやすいようにしていくことが望まれると感じます。(女性・40代)
-
- ・ 「男だから」「女だから」というくくりを取り除く事も大事と思う一方で、「男だから」「女だから」求められる役割を全うする事を生き甲斐としている人もいる。各家庭、各個人で考え方も違うので、認め合う人同士でそれぞれの形の「男女共同参画社会」を作れば良いと思う。無理に「こうあるべき」という理念は作らなくて良いと思う。(男性・20代)
-
- ・ まだまだ男尊女卑、女性蔑視の考えが根深くとても生きづらい世の中です。周りの方々(特に年配者)の意識改革をしていかないと「男女共同参画社会」の実現は厳しいと思っています。(女性・50代)
-

・ まだ男女ともに固定概念があるから、女性は仕事をせず、家を守る。男性は大黒柱だから仕事をする。そうではなくて、男女ともに仕事をして、家族との団らんを築いたり、男性が家を守って女性が仕事をしてもいいと思う。人間は尊さをすぐに信用してしまい、男の人が仕事をせず、女の人に頼って生活しているなど、そういうことをおかしいと思う人がいるからこそ、男性が仕事をする、女性が家を守るなどのことが生まれると思います。少しでもいいから男性に育児休業など、いろいろな会社で行ったりした方がいいと思います。私の意見が反映されるかはわかりませんが、高校生の間にこのアンケートができてよかったです。社会に出る前にいろいろな事を学べて、私が思っている事を書けたのでごくよかったです。これからもこのようなアンケートを実施していった方がいいと思います。このアンケートでより良いものになることを願います。ありがとうございました。(女性・10代)

・ 道徳教育の推進、マナー、挨拶(男性・70代以上)

・ まずは家庭の中から。家事・育児を女性任せにしない。性的少数者については関心なし。(女性・20代)

・ 「男性が働き女性が家庭を守る」ことが大切だと思うのですが、女性が家庭にいることに対して、社会から取り残された感じがないように家庭でよく話し合い、さみしくならないようにして欲しい。才能のある女性が活躍できないのも残念なのですが、そのためには男性側からの協力が必要だと思います。(女性・60代)

・ 男女関係なく人は適材適所という考え方を浸透させていけたらいいのではないかと思います。能力のある、なし、向いている、向いていない、だと思えます。(女性・30代)

・ 男女で一緒に、とっているうちは実現できないと思う。個人単位で考えることを優先すべき。男女=男と女で分ける考え方がしみついている。その時点でその思想のどこかに男女で何かを区別している部分がある。標準化(マニュアル化)、平均化(※できる人、できない人の中間という意味ではなく、できる人がいるなら、その人に平均を合わせて、作業を組み立てる)等、個人の意識を高めていく仕組みの社会になるほうが、より差別ではないと思う。(女性・20代)

・ 福祉などの賃金の低い職への支援、改善(女性・30代)

・ 男性と女性が同じことをする必要はないと思う。それぞれが優れている点をまずは自覚すること。そのうえで性別関係なしに個人の能力を尊重した配置を行うと良いと考える。性別関係なく、個人の希望が叶うよう行政がサポートしてくれるとありがたい。具体的には育児、介護などは女性の負荷が大きいのが現実だと思うため、これらの支援が、効果が大きいと考える。(男性・30代)

・ お願いします。私、来年2月が来ると80歳になります。こんなややこしい事を書かせないで下さい。本当に役に立たない年齢です。これからはこんな資料は送らないで下さい!!(女性・70代以上)

「その他」に記述された意見

問2 今後、社会のあらゆる分野で、男女が対等な立場でともに参画していくためには、どのようなことが必要だと思われますか。

- ・ 安衛法にもあるが、男女では根本的に体力差があるので対等というのはおかしいと思う。(男性・30代)
- ・ 女性に目を向けなくても自然と自由な日本社会では自立できている。逆に男女平等になるよう男性にも職場環境を見つめていくべき。老人介護、障害者支援、最低生活支援にも自立支援を本気で考えるべき。労働者の最低生活を支援しようよ。(男性・60代)
- ・ それでも女性は体力的に男子より劣ると思う。どうしても、女性を男子はかばうと思う。でも女性はそれが嫌と言うでしょう。(男性・60代)
- ・ 全体的な労働条件の改善をはかり生活に余裕をもたせること(女性・30代)
- ・ 保育施設の充実を図ることで女性も対等に参画できると思う。(女性・20代)
- ・ 男性の意識改革や能力による平等な評価の実施。雇用者数などに対して、一定の数や割合は定めるべきではない。(男性・30代)
- ・ 男性の意識向上(女性・40代)
- ・ 子育て支援を充実させること(男性・50代)
- ・ 男性の意識改革(女性・40代)
- ・ そもそも男と女は構造的体格が根本的に違っている。生理学的に見れば男は労働に向いている体であり、女は子供を生むという体である事については太古の昔から始まっている。それが現代社会に繋がっている事は言うまでもないが…。問2で社会のあらゆる分野で男女が対等な立場で…とあるが、その点についてはまず結論を言っていだろうか？現時点では不可能です！！と言いたい！（但し、社会のあらゆる分野でなく、重労働の仕事でなく頭を使うような分野では女性是对等な立場でともに参画できると思います…。）可能にする為にはただ一つ！女性が男性の身体能力を身につけるしかないのでは？(男性・60代)
- ・ ワークライフバランスの改善（男女共）(男性・40代)
- ・ それぞれ考え方や状況が違うので。(女性・60代)
- ・ 女性の方が適正のある仕事の社会的な価値を上げる事。(女性・40代)
- ・ 妊娠中の労働のあり方。保育園等、育休が実際取れなかったり、パート・アルバイトでなかったり。(女性・40代)
- ・ 家庭の有り様を論ぜず、男女の対等の社会参画を論ずるのは、根を無視して幹、葉のみを描いて木を描いていると言っているようなものだと思う。(男性・70代以上)
- ・ 男女がお互いの身体的・精神的特徴（例えば女性の月経等）をきちんと理解し、互いに支え合えるような教育を行う。(男性・20代)
- ・ 保育所の充実(女性・40代)
- ・ 政府や行政に頼らず、自身の力である程度努力が必要。(男性・20代)
- ・ 子育て重視。女性の社会進出は年々子供が減少している原因のひとつではないかと思う。(男性・30代)

・ そもそも男女で区別しない（就業など）（女性・20代）

・ 個人として平等に考え、評価すること（女性・20代）

問3 今後、男女共同参画社会を進めるために、女性が増えた方がよいと思う職業や役職などはどれですか。

・ 女性がなりたい職に就けば良いと思います。（女性・20代）

・ 医師・看護師・保育士（男性・50代）

・ それぞれに女性がが増えてほしいです。（女性・50代）

・ 女性にしか出来ない事、心くばり、細かい事などがあると思う。その職業によって違いがあるのではないのでしょうか？やる気のある女性が多いと良いですが、子育てをしっかりとだめなのは。（女性・70代以上）

・ 伝統行事とかボランティアにも女性は参画していくべき（男性・60代）

・ できれば家庭にいて（子供が小さい時は）子育て（男性・60代）

・ 能力に応じて（女性・60代）

・ 性別にかかわらず、就きたい職業に就けるようにしてほしい。（男性・30代）

・ 適性があれば職種は関係しないと思います。（男性・20代）

・ 地方の各種業（女性の社会進出は良いが、何故地方に女性が少ないのか？）（男性・50代）

・ 一般生活（三角形図形に例えて）の底面の苦しさ等が理解できる方（女性・60代）

・ 普通に結婚して子育てや親の面倒を見たことがある人（男性・50代）

・ システム開発や情報セキュリティのエンジニア（男性・40代）

・ ジャンルを問わず、労働者としての女性が増えていくべき（男性・30代）

問6 一般的に、女性が職業を持つことについて、どのように思いますか。

・ 自由にすればよい。（女性・20代）

・ 1つの職業にこだわらず、結婚、出産、育児に関わらず何かできる事をしたら良いと思います。（女性・40代）

・ 女性が働くのには賛成ですが、仕事に育児・家事と色々な負担が生じ、それが子育てにも悪い影響となり、心が荒れた子供が増えていると思います。子育てに悪影響を与えないですむような働き方を望みます。（女性・50代）

・ 子供が6ヶ月で職場復帰しましたが、体力的にも精神的にもとても大変です。しかし、ずっと家にいることよりも、仕事をしてやりがいを感じたいとも思います。（女性・30代）

・ 個々人の自由にしたらいいと思う。（女性・20代）

- 本人の意志(女性・60代)

- それぞれの立場や状況にあわせて本人の意思を大切にしたらよい。(女性・20代)

- 無理に持つ必要はない。自分が持ちたければ持てば良い。専業主婦が良いという女性もいる。(女性・40代)

- 結婚、出産、育児が前提となった質問なので、どれも選べない。女性であれ男性であれ、経済的に余裕があるのであれば、無理に働く必要はないと思う。働くことへの動機付けが重要だと思う。(男性・30代)

- 個人の意識による(男性・50代)

- 家庭環境で1つ1つ違うので、一概には言えないが結婚、出産、育児にかかわらず、ずっと職業を持つ方が理想だと思います。(男性・50代)

- 職業にもよりますが理想的には「子どもができたら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業をもつ方がよい」、母親は子どもに(小さい時は)寄りそって育ててほしい、3才までは。親の愛情不足、ふれあいが足りないのではないのでしょうか？最近色々な事件が多く、世の中他人に対する思いやりが薄れていっているのでは…。個人主義が強いように感じる。(女性・60代)

- 知識を習得すると両立はできると思う。(男性・60代)

- 本人の意思次第(男性・70代以上)

- したい人はすれば良い。(男性・20代)

- 学費のため職業を持つ必要がある。(男性・50代)

- 私はこれから職に就く立場ですが、結婚し子供ができた時は仕事を休業し、保育園など預かってもらえる所があるなら預かってもらい、仕事をするのも良いと思います。仕事をしても、しなくても良いと私は思います。(女性・10代)

- 女性が職業を持つのは素晴らしいと思います。しかし、夫等の協力が無いと実践できない。(女性・60代)

- 本人の意志次第(女性・40代)

問7 育児休業取得率は、平成28年度長崎県労働実態等調査によると、女性の89.2%に対し男性は8.8%と、女性に比べて男性の制度利用はなかなか進んでいませんが、その理由としてどのようなことが考えられますか。

- 職場の理解がないと勝手に思い込んでいる。(男性・30代)

- 仕事があるから休めるワケがない。(男性・40代)

- 男性が育児に参加しようと思ってないから。(女性・20代)

- 休めば体の調子がくるうのでは？心配(男性・60代)

- 男性の意識：育児は女性及び育休により女性の体調回復をはかった方がよいという思い。(女性・60代)

- 各人の意識の問題(男性・70代以上)

- 1～6 全て(男性・40代)

- ・ 休業したとして、どのように育児に参加すればよいかかわからないんじゃないですか。(男性・20代)

- ・ 私の考えでは男は入社してから定年退職まで会社の為になるよう努力する(企業戦士)が基本的な考えではな
かろうか?だから休むなんてもってのほかではないのでしょうか?私も実際、休むなんて考えもつかなか
った!女性の場合は例えば結婚等で夫がいるから安心なのでそこまでも考える必要がない事が89.2%の要因で
は?(男性・60代)

- ・ 夫は高齢であり、無職だから。(女性・70代以上)

- ・ ”育児は女性が取るもの”という周りの意識・偏見(女性・20代)

- ・ 1~5があるから。(女性・50代)

- ・ 一部のIT企業や大手の都会の話といった現状(女性・40代)

- ・ 女性でないとできないことがあるから(母乳)(女性・50代)

- ・ 男性が子育ては女性の仕事だと思っている人が多いから。(女性・50代)

- ・ 公務員ができる事で有り、中、小、零細企業では現実的ではない。(男性・60代)

- ・ 都会に比べ田舎は女性の育児が当たり前という考えが多い企業があるのでは?とっております。男性の育休
を推進してほしいと思います。(女性・60代)

- ・ そういう社会ができあがっているから。(男性・20代)

問8 今後、男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、
どのようなことが必要だと思いますか。

- ・ 夫婦が理解し合うこと(男性・40代)

- ・ 育児休業を取りやすくする為の対策(女性・30代)

- ・ 日本の男性が他国の男性のしている育児や家事について学ぶこと。(男性・20代)

- ・ 子育て主体の社会(男性・50代)

- ・ 家事・子育て・介護の実情を知り理解し、一人にやらせるのではなく家族が協力する、一緒にやる。思うだけ
ではなく実行する事が必要。(女性・50代)

- ・ 長崎の賃金水準を上げる事(女性・40代)

- ・ 今の仕事の状態ではどんな手を打っても不可(男性・30代)

- ・ 親世代以上の方々の考え方が変わる(亭主関白など)(女性・20代)

問10 職業をお持ちのかたにおたずねします。あなたは、今の職場の仕事内容や待遇の面で、性別を
理由とした男女間の差があると思いますか。

- ・ 自営なので共にうまくやっている。(男性・70代以上)

- ・ 自営のため特に何もなし(女性・40代)
- ・ 今はほとんどが女性の職場ですが、男性がいても条件は女性と同じだと思います。(女性・50代)
- ・ アシスタント的な仕事として勤務しているので感じない。(女性・50代)
- ・ 女性が結婚しにくい。(男性・30代)
- ・ 女性本人が望まないように見える。(男性・60代)
- ・ 経営の一員である為(女性・60代)
- ・ 女性ばかりなので差はないです。(女性・60代)
- ・ 年金生活(女性・70代以上)
- ・ 自営業なのでお互いにフォローしながら行えている。(女性・20代)
- ・ 男性には優しいが女性に対して厳しい。女性に対するパワハラ。(女性・40代)
- ・ 女性べっ視する人が多く、無視などの嫌がらせや無言の圧力が存在する。(男性・20代)
- ・ 職場の問題というより、子育てを1人で担うことが、非常に業績を上げにくい状態につながっている。(女性・40代)
- ・ 自分で経営しているので…(女性・70代以上)
- ・ 現場業務(3K)なので、特に感じない(女性はいない)(男性・50代)
- ・ 60才以上で雇用され賃金2%カット、28年間同職の仕事なのにショックで働き力低下です。しかも重労働なのに！くやしい！！(女性・60代)
- ・ 男性に優しい、女性には厳しいように感じる。(女性・50代)
- ・ 女性社員は職種を選んでも、差はほぼないと思う。(女性・50代)
- ・ 自営業のため認識がない。(男性・60代)
- ・ 女性の方が得している。(男性・50代)
- ・ 男女の仕事内容が違うので何とも言えない。(男性・60代)

問11 性別にかかわらず、各自の能力を発揮していきいきと働くためには、どのようなことが必要だと思いますか。

- ・ 家事を夫婦共同でおこなうこと。性差による業務、役割分担の解消。(男性・30代)
- ・ 女性の体力面でのハンディをカバーする(男性・50代)
- ・ 男・女という考えをやめる(本人が望むのであれば)(女性・50代)
- ・ 上記全部必要だと思う。(女性・20代)
- ・ とにかく長崎の働く人材を増やしてください。(男性・30代)

・ 仕事を評価制度にする(女性・30代)

・ 役員たちの考え方が変わる(女性・20代)

問 12 あなたが参加している地域活動（自治会、PTA活動など）での現状について、あてはまるものをすべて選んでください。

・ 地域活動に参加していない(男性・30代)

・ 参加していないのでわからない(男性・40代)

・ 地域活動には参加してない（体調の面より）(男性・60代)

・ 最近の状況がよくわかりません(女性・50代)

・ 参加していないのでわからない(女性・40代)

・ 自治会に入っていない(女性・70代以上)

・ 地域活動はしていない(男性・30代)

・ 参加してないのでよくわからない(女性・60代)

・ 地域活動への参加機会がなくよくわからない(女性・30代)

・ 参加していない(女性・30代)

・ 地域活動に参加したことがまだない(女性・30代)

・ 自治会に参加した事がない(女性・70代以上)

・ 現在、地域活動に参加していない。(男性・30代)

・ 行く機会がありません。(女性・30代)

・ 男性、女性とも仕事がある為、地域活動に参加が少ない。(女性・60代)

・ 活動をしていません。(男性・40代)

・ 参加していない(女性・30代)

・ 参加しないのでわかりません(女性・40代)

・ 地域活動してない(女性・30代)

・ 地域活動に参加していない(男性・50代)

・ 地域活動に参加していないのでわからない(女性・40代)

・ 参加していない。(男性・30代)

・ 地域活動に参加していない(男性・20代)

- ・ 地域活動への参加実績がないため(女性・60代)
- ・ 高齢と病弱・通院・入退院のため活動していない。(男性・70代以上)
- ・ 地域活動をしていない。(男性・60代)
- ・ 自治会に参加する機会がない。(女性・50代)
- ・ 集合住宅なので自治体に加入していない為回答できず(女性・60代)
- ・ 老齢となり参加できないので申し訳ない。(男性・70代以上)
- ・ 女性が多い地域(男性・60代)
- ・ 2年前迄仕事は続けたが体力の限界で仕事は中止(女性・70代以上)
- ・ 地域活動にあまり参加していない。(女性・20代)
- ・ 地域活動をやってない。(男性・60代)
- ・ 参加していない。(女性・20代)
- ・ 参加していないので選べない。(男性・30代)
- ・ 特に地域活動はしていない。(男性・60代)
- ・ 地域・PTA活動に今は関わっていないのでわからない。(女性・50代)
- ・ 参加していない。(男性・30代)
- ・ 参加していない。(男性・30代)
- ・ 参加してない、自治会があるかわからない。(男性・60代)
- ・ 特に参加していない。(女性・20代)
- ・ 女性だけではなく、男性も役員につきたがらない。(男性・60代)
- ・ 市役所退職者の自治会長の横暴さ、人種(男女差別)、女性の意見を聞かない。先日の選挙で変更になりました。要するに人間性。(女性・50代)
- ・ 地域活動には参加していません(女性・50代)
- ・ 参加していないのでわからない。(女性・30代)
- ・ 参加していない(男性・30代)
- ・ 参加していない。(男性・30代)
- ・ 地域活動に特に参加していません。(男性・70代以上)

問 13 女性が自治会長などの地域活動における役職についたり、活動の意思決定の場へ参画していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。

- ・ 自治会に入っていないのでわからない(女性・70代以上)

- ・ 活動を広げていく(発言していく)事は、言った事に対して責任を持つという事なので、安易に活動すると、さらに仕事が増えてしまい大変になると思って、活動までに踏み切れない。(女性・40代)

- ・ 活動をしていない(男性・30代)

- ・ その女性が役職につきたいと願い、意欲的に活動する姿を見せていけば、役職につける。もう、男女別で自治会長レベルに女性がつかないことはない。(女性・40代)

- ・ 現状女性がしっかり役職についているので、場合によると考える。(男性・20代)

- ・ 任期中は、本当に均等な眼で全体を見てくれるか、また難しい事柄が出ると、途中で放り出してやめたりしないかという責任を持って行動できる人(女性)であることを、女性が自覚できているのか、責任を果たせるのかを学校教育、社会教育の中で教育し啓発する必要もある。「女性は弱い、保護しなければ、女性の権利は」だけの繰り返しでは、この問題は進展しないと思う。逃げだけは上手と言われるだけになる。(男性・60代)

- ・ 学生であり、社会経験の少ない若造なのでわかりませんが、会長などの重要な役職は「この人になってほしい」って思える人になってもらうものじゃないんでしょうか…。男女関係なく。(男性・20代)

問 14 大規模な災害時へ備えるには、女性の視点での意見も必要となります。今後、男女がともに安心・安全な防災体制を整えるためには、どのような取り組みが必要だと思いますか。

- ・ 防災対策に男性・女性となにか区別があるんですか?(男性・30代)

- ・ 男女問わずいろいろな意見を集める事。(男性・20代)

問 18-2 問 18-1 で「1 知っている」と答えたかたにおたずねします。どのようにしてその広報・啓発を知りましたか。

- ・ カード式の物をもらった事がある。(女性・40代)

- ・ 高校の授業で知った。(女性・20代)

- ・ 職場のスタッフ間(女性・60代)

- ・ CM(男性・20代)

問 20 性的少数者の方々は周囲の理解不足によりいじめや差別を受けやすく、様々な生きづらさを抱えていると言われていますが、性的少数者の方々の生きづらさを解消するためにどのような対策が必要だと思いますか。

- ・ 友だち同志のコミュニケーション(女性・20代)

- ・ 男性は男性、女性は女性、人類がなくなってしまうそう。(男性・60代)

- ・ いない。(男性・40代)

- ・ 互いの価値観の受容。国際的になる。異なる人との交流の場をつくる。日本は受容がおそい。(女性・40代)

- ・ 見た目の性別で判断しないことが当たり前になるよう、社会意識の醸成(男性・30代)

- ・ 差別を持つ人に知る機会を与える。(女性・30代)

- ・ 法律の改正(男性・50代)

- ・ 共同浴場等でも更衣室を個室化する等必要(男性・40代)

- ・ ゲイの男、大嫌いです。(男性・60代)

- ・ 身近にそういう人がいないので理解しにくい！(女性・60代)

- ・ とにかく発信し続ける事。人々の意識を変え、それが当たり前の社会にする事。ハード面を整える事。(女性・50代)

- ・ 性的少数派というのが差別では？(男性・50代)

- ・ LGBの人達が過度に理解を求めない事。Tの方へは性転換手術等で解決できるのなら、その費用が少なくなる様な制度ができれば・・・。(男性・20代)

問 21 「男女共同参画社会」の実現に向けて、今後、行政はどのようなことに力をいれていくべきだと思いますか。

- ・ 所得の上昇、男女差の縮小(男性・20代)

- ・ 性差や多様性に関する知識修得の機会を設ける(男性・30代)

- ・ 行政に携わる人々が、真剣にそうしたい、そうありたいと思って仕事をしないと人々には何も伝わらない、何も変わらない。(女性・50代)

- ・ 出産後に職場に戻るために長期の休業ができるようにする。(産休が短く、短期で戻るのはきつい)(女性・30代)

- ・ 女性の良い点、優れている点を行政がPRしていく(男性・30代)

調査票

平成 30 年度 男女共同参画に関する市民意識調査・調査票

それぞれの設問について、該当する記号を○で囲んでください。
ご回答にあたっては、平成 30 年 11 月 1 日時点の内容でお答えください。

1 男女共同参画に関する意識について

問1 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたはどのように思いますか。

次の 1～6 の中から、あなたの考えにもっとも近いものを 1 つだけ選んで、○で囲んでください。

- 1 そう思う
- 2 どちらかといえばそう思う
- 3 どちらともいえない
- 4 どちらかといえばそう思わない
- 5 そう思わない
- 6 わからない

問2 今後、社会のあらゆる分野で、男女が対等な立場でともに参画していくためには、どのようなことが必要だと思われますか。

次の 1～8 の中からあなたが必要だと思うものを 2 つまで選んで○で囲んでください。

- 1 法律や制度の見直しを行い、男女が対等になるよう改めること
- 2 性別による様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること
- 3 女性の意識向上や、知識・技術を習得するなど力の向上を図ること
- 4 女性の就業・社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること
- 5 政府や企業などの重要な役職に一定の割合で女性を登用すること
- 6 特に必要なことはない
- 7 わからない
- 8 その他（具体的に _____)

問3 今後、男女共同参画社会を進めるために、女性が増えた方がよいと思う職業や役職などはどれですか。

次の1～13の中から2つまで選んで○で囲んでください。

- 1 都道府県、市（区）町村の首長
- 2 国会議員、都道府県議会議員、市（区）町村議会議員
- 3 都道府県、市（区）町村の審議会等の委員
- 4 国家公務員・地方公務員の管理職
- 5 裁判官、検察官、弁護士、医師
- 6 大学教授
- 7 企業の経営者・管理職
- 8 労働組合の幹部
- 9 農協・漁協の役員
- 10 自治会長
- 11 特にない
- 12 わからない
- 13 その他（具体的に _____）

問4 次の1～8の男女共同参画に関する言葉のうち、あなたが見たり聞いたりしたことがある言葉をすべて選んで○で囲んでください。

用語	本調査における用語の説明
1 男女共同参画社会	男女が社会の対等な構成員として、自らの意思であらゆる分野の社会活動に参画する機会が確保される社会。
2 女性活躍推進法	「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」。平成27年9月施行。女性の職業生活における活躍を推進し、豊かで活力ある社会の実現を図ることを目的とする。
3 固定的な性別役割分担	男女の性別を理由として役割を固定的に分けること。「男は仕事・女は家庭」「男は主要業務・女は補助的業務」などが一例。
4 配偶者からの暴力（DV＝ドメスティック・バイオレンス）	配偶者暴力防止法における「配偶者からの暴力」とほぼ同義語として、配偶者・恋人・パートナーなどからの身体的暴力および心身に有害な影響を及ぼす言動を指す。
5 セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）	様々な生活の場における人間関係において、優位な力関係を背景に、相手の意思に反して行われる性的な言動。
6 ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）	やりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、多様な生き方ができるように、個人、企業、社会による仕事と生活の両立のための取組。

7	性的少数者	女性同性愛者、男性同性愛者、両性愛者、トランスジェンダー（性同一性障害など）をはじめとする、性のあり方が多数派と異なる人。
8	見たり聞いたりしたものはない	

2 ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について

問5 生活の中での「家庭生活」「仕事」「地域活動」の優先度について、「1 あなたの希望・理想」と「2 あなたの現状・現実」について、それぞれア～クの中からあなたにあてはまるものを**1つ**選んで○で囲んでください。

項 目	家庭生活を優先	仕事を優先	地域活動を優先	家庭生活と仕事をともに優先	仕事と地域活動をともに優先	家庭生活と地域活動をともに優先	家庭生活、仕事、地域活動をいすれも優先	わからない
1 あなたの希望・理想	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク
2 あなたの現状・現実	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク

問6 一般的に、女性が職業を持つことについて、どのように思いますか。
次の1～8の中からあなたの考えにもっとも近いものを**1つ**選んで○で囲んでください。

- 1 女性は職業を持たない方がよい
- 2 結婚するまでは、職業を持つ方がよい
- 3 子どもができるまでは、職業を持つ方がよい
- 4 仕事と家庭生活の両立ができるのであれば、職業をもつ方がよい
- 5 子どもができたら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業をもつ方がよい
- 6 結婚、出産、育児にかかわらず、ずっと職業を持つ方がよい
- 7 わからない
- 8 その他（具体的に)

問7 育児休業取得率は、平成28年度長崎県労働実態等調査によると、女性の89.2%に対し男性は8.8%と、女性に比べて男性の制度利用はなかなか進んでいませんが、その理由としてどのようなことが考えられますか。

次の1～7の中から、あなたの考えにもっとも近いものを**1つ**選んで○で囲んでください。

- 1 職場の理解が得られないから
- 2 昇進や昇給に影響する恐れがあるから
- 3 取得後の職場復帰への不安があるから
- 4 経済的に影響があるから
- 5 周囲に利用した男性がいないから
- 6 女性のほうが育児に向いているから
- 7 その他（具体的に _____）

問8 今後、男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。

次の1～13の中から必要だと思うものを**2つまで**選んで○で囲んでください。

- 1 男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと
- 2 男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと
- 3 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること
- 4 年配者やまわりの人が夫婦間における家事等の役割分担について、当事者の考え方を尊重すること
- 5 社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動についての評価を高めること
- 6 労働時間短縮や休暇制度、柔軟な勤務制度の普及により、仕事以外の時間をより多く持つようになること
- 7 男性が家事や子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと
- 8 国や自治体などの研修等により、男性の家事や子育て、介護などの技能を高めること
- 9 男性が子育てや介護、地域活動を行うための、仲間（ネットワーク）づくりをすすめること
- 10 家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること
- 11 特に必要なことはない
- 12 わからない
- 13 その他（具体的に _____）

3 家庭生活の中での男女共同参画について

問9 現在ご結婚されているかた（事実婚を含む）におたずねします。

（該当されないかたは問10へ）

あなたの家庭では、実際にどなたが次の1～9までの役割を行っていますか。

それぞれア～オの中から当てはまるもの1つを選んで、○で囲んでください。

項 目	ておもに妻が行っている	ておもに夫が行っている	夫婦共同で行っている	夫婦以外の人が行っている	ア～エどれにも当てはまらない
1 掃除	ア	イ	ウ	エ	オ
2 洗濯	ア	イ	ウ	エ	オ
3 食事の支度、あとかたづけ	ア	イ	ウ	エ	オ
4 育児（子どもがいる人のみ）	ア	イ	ウ	エ	オ
5 子どもの教育（子どもがいるひとのみ）	ア	イ	ウ	エ	オ
6 家族の介護や病人の世話	ア	イ	ウ	エ	オ
7 家計の管理	ア	イ	ウ	エ	オ
8 地域活動（自治会・PTA活動など）への参加	ア	イ	ウ	エ	オ
9 家庭問題における最終的な決定	ア	イ	ウ	エ	オ

4 職業生活の中での男女共同参画について

問 10 職業をお持ちのかたにおたずねします。 (該当されないかたは問 11へ)

あなたは、今の職場の仕事内容や待遇の面で、性別を理由とした男女間の差があると思いますか。

次の 1～11 の中からあてはまるものを 2つまで 選んで○で囲んでください。

- 1 差はない
- 2 正社員の中でも賃金に差がある
- 3 昇進、昇格に差がある
- 4 能力が正当に評価されない
- 5 性別を理由に補助的な仕事しかやらせてもらえない
- 6 役員・管理職等への登用が性別で偏っている
- 7 結婚、妊娠・出産などがあると仕事を続けにくい雰囲気がある
- 8 性別により、定年まで勤め続けにくい雰囲気がある
- 9 能力や技能向上の教育・訓練を受ける機会が少ない
- 10 わからない
- 11 その他 (具体的に)

問 11 すべてのかたにおたずねします。性別にかかわらず、各自の能力を発揮していきいきと働くためには、どのようなことが必要だと思いますか。

次の 1～11 の中から、あなたが必要だと思うものを 2つまで 選んで○で囲んでください。

- 1 同じ価値のある仕事については、パート・正社員で差をつけずに同じ賃金にする
- 2 短時間勤務制度など柔軟な勤務制度を整備し、地域活動や家庭生活などの時間を確保できる仕組みをつくる
- 3 職場の意思決定の場に女性を積極的に参加させる
- 4 お茶くみ、コピーとりなど補助的な仕事は、男女の別なく行う
- 5 育児休業制度や介護休業制度を男性・女性ともに取得しやすい環境を整える
- 6 職場で、セクシュアル・ハラスメント防止の人権教育を実施する
- 7 昇給・昇格の条件となる教育・研修などは男性・女性の区別なく平等に受けられるようにする
- 8 企業・事業所に対する男女共同参画についての広報・啓発を積極的に行う
- 9 特にない
- 10 わからない
- 11 その他 (具体的に)

5 地域活動などでの男女共同参画について

問 12 あなたが参加している地域活動（自治会、PTA活動など）での現状について、次の 1～10の中から、あてはまるものをすべて選んで○で囲んでください。

- 1 催し物の企画など、重要なことを決定する機会に女性が少ない
- 2 会議や行事などの準備や片付け等は、女性がやる慣行がある
- 3 団体の会長に男性がつき、女性は補助的役職につく傾向がある
- 4 女性が発言しにくい雰囲気がある
- 5 女性が役員につきたがらない
- 6 日常の活動に男性の参加が少ない
- 7 女性が少ないため歓迎される
- 8 女性のほうが積極的で活発である
- 9 特に男女差はない
- 10 その他（具体的に)

問 13 女性が自治会長などの地域活動における役職についたり、活動の意思決定の場へ参画していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。
次の 1～7の中から、あなたが必要だと思うものを2つまで選んで○で囲んでください。

- 1 女性が役職につくことに対する女性自身の抵抗感をなくすこと
- 2 女性が役職につくことに対する男性の抵抗感をなくすこと
- 3 女性が役職につくことに対する必要性についての啓発や情報提供、研修等を行うこと
- 4 女性が役職につくことに対して、周囲の人の支援や協力が得られるようにすること
- 5 特に必要なことはない
- 6 わからない
- 7 その他（具体的に)

6 防災対策における男女共同参画について

問 14 大規模な災害時へ備えるには、女性の視点での意見も必要となります。今後、男女がともに安心・安全な防災体制を整えるためには、どのような取り組みが必要だと思いますか。

次の1～10の中から、あなたが必要だと思うものを2つまで選んで○で囲んでください。

- 1 防災関係者に対する男女共同参画の意識づくり
- 2 防災に関する計画に女性の視点からの意見を反映させる
- 3 女性の意見を反映させるための仕組みづくりや防災会議の委員への女性の積極的な登用
- 4 防災に関わる職域への女性の参画拡大や女性リーダーの育成
- 5 防災に関する研修会などの学習機会の提供
- 6 男女がともに安全・安心に利用できる避難所運営マニュアルの作成
- 7 災害時の相談窓口体制の確立
- 8 特に必要なことはない
- 9 わからない
- 10 その他（具体的に)

7 男女共同参画を阻害する暴力について

問 15 あなたは、配偶者や恋人など親密な関係にある（あった）異性からの暴力（DV＝ドメスティック・バイオレンス）や、その被害について、見たり聞いたりしたことがありますか。

次の1～7の中から、あてはまるものをすべて選んで○で囲んでください。

- 1 身近に被害を受けた人がいる
- 2 身近な人から暴力被害について相談されたことがある
- 3 テレビや新聞などで問題になっていることは知っている
- 4 見たり聞いたりしたことはない
- 5 自分自身が被害にあっている
- 6 その他
- 7 わからない

問 16 次の 1～11 の中から、あなたが配偶者や恋人など親密な関係にある（あった）異性からの暴力（DV=ドメスティック・バイオレンス）に含まれると思うものをすべて選んで○で囲んでください。

- 1 殴る、ける
- 2 殴るふりや刃物などを使っておどす
- 3 相手が嫌がっているのに性的行為を強要する
- 4 避妊に協力しない
- 5 相手が嫌がっているのに性的な映像・雑誌などを見せる
- 6 長期間、無視する
- 7 相手の行動を監視したり、交友関係を制限して干渉する
- 8 相手のプライドが傷つくようなことを言う
- 9 大声でどなる
- 10 物をこわす
- 11 生活費を渡さないなど、経済的に圧力をかける

問 17 次の 1～9 の中から配偶者や恋人など親密な関係にある（あった）異性から、さまざまな暴力（DV=ドメスティック・バイオレンス）を受けたときの相談窓口として、あなたが知っているものをすべて選んで○で囲んでください。

- 1 警察
- 2 法務局・人権擁護委員
- 3 裁判所
- 4 長崎県弁護士会
- 5 民間の機関（DV 防止の啓発や DV 被害者支援等の活動を行う団体）
- 6 長崎県子ども・女性・障害者支援センター
- 7 長崎市役所（アマランス相談・市民相談）
- 8 その他の機関
- 9 知らない・わからない

問 18-1 長崎市では、配偶者や恋人など親密な関係にある（あった）異性からの様々な暴力（DV =ドメスティック・バイオレンス）を防止するための広報・啓発を行っています。あなたはそれを知っていますか。

次の 1～3 の中からあてはまるものを 1つ選んで○で囲んでください。

- 1 知っている
- 2 知らない
- 3 わからない

問 18-2 問 18-1 で「1 知っている」と答えたかたにおたずねします。

(該当されないかたは**問 19**へ)

どのようにしてその広報・啓発を知りましたか。

次の 1～8 の中から当てはまるものを**すべて選んで○で囲んでください。**

- 1 広報ながさき
- 2 長崎市男女共同参画推進特集号
- 3 長崎市ホームページ(男女共同参画のページ)
- 4 男女共同参画推進センター「アマランス」の講座
- 5 長崎市民会館ホームページ
- 6 アマランス通信
- 7 ポスター・ちらし
- 8 その他()

8 その他

問 19 あなたは今までに、自分の体の性、心の性または性的指向(同性愛など)に悩んだことがありますか。

次の 1～2 の中からあてまるものを**1つ選んで○で囲んでください。**

- 1 はい
- 2 いいえ

問 20 性的少数者の方々は周囲の理解不足によりいじめや差別を受けやすく、様々な生きづらさを抱えていると言われていますが、性的少数者の方々の生きづらさを解消するためにどのような対策が必要だと思えますか。

次の 1～6 の中から、あなたが必要だと思うものを**すべて選んで○で囲んでください。**

- 1 自治体による市民や企業等への啓発活動や相談窓口の周知
- 2 自治体によるパートナーシップ制度(※)の導入
- 3 学校教育における子どもの学習機会や、教職員及び保護者等への研修の充実
- 4 性的少数者が動きやすい職場環境づくりや提供される顧客サービスの整備
- 5 わからない
- 6 その他(具体的に)

※パートナーシップ制度

法律上の男女の婚姻とは異なり、性的少数者の方々のパートナー関係(いわゆる同性カップル等)を、自治体独自に証明するもの(婚姻や相続、税金の控除等の法律上の効果は生じない)。

問 21 「男女共同参画社会」の実現に向けて、今後、行政はどのようなことに力をいれていくべきだと思いますか。

次の1～12までの中から、あてはまるものをすべて選んで○で囲んでください。

- 1 法律や制度の面で見直しを行う
- 2 女性を政策決定の場に積極的に登用する
- 3 各種団体の女性のリーダーを養成する
- 4 職場における男女の均等な取り扱いについて周知徹底する
- 5 女性の就労の機会を増やしたり、従来、女性の就労が少ない分野などへの女性の進出を促進するための職業教育や職業訓練を充実させる
- 6 保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実させる
- 7 学校教育や社会教育等の生涯教育の場で男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実させる
- 8 女性や男性の生き方に関する情報提供や交流の場、相談、教育などのセンターを充実させる
- 9 広報誌やパンフレットなどで、男女の平等と相互の理解や協力についてPRする
- 10 特にない
- 11 分からない
- 12 その他（具体的に _____)

問 22 長崎市で「男女共同参画社会」を実現するため、あなたのアイデアやご意見などをお聞かせください。

※最後に、今回の調査回答を統計的に分析するために、あなたご自身のことについて、おたずねします。①～⑥について、それぞれ当てはまるものを○で囲んでください。

① あなたの性別（※自認する性で構いません）

- 1 男性 2 女性

② あなたの年齢

1. 18～19歳 2. 20代 3. 30代 4. 40代 5. 50代
6. 60代 7. 70代以上

③ あなたの職業

自営業者 (経営者)	1 農業、林業、漁業 2 商工業、製造業、サービス業（各種卸・小売店、飲食店など） 3 自由業（開業医、弁護士等）
---------------	---

家族従業者	4 農業、林業、漁業 5 商工業、製造業、サービス業（各種卸・小売店、飲食店など） 6 自由業（開業医、弁護士等）
-------	---

雇用されている者 (役員を含む)	7 役員・管理職 8 専門・技術職 9 事務職 10 販売・サービス・保安職 11 農林漁業職 12 生産・輸送・建設・労務職	➡	そのお仕事は ア 常勤（フルタイム） イ 非常勤 ウ パートタイム （パートやアルバイト） エ 契約社員、派遣社員 オ その他
---------------------	--	---	---

無 職	13 主婦・主夫 14 学生 15 その他
-----	-----------------------------

④ あなたは現在ご結婚されていますか。

- 1 結婚している（事実婚を含む） 2 離別・死別 3 未婚

⑤ あなたの世帯の構成

- 1 単身世帯 2 本人と配偶者のみ 3 本人と配偶者、子ども
4 本人と配偶者、子ども、父や母（三世帯世帯） 5 本人と子ども
6 本人と親 7 その他（ ）

⑥ お子さん（別居を含む）はいらっしゃいますか。

- 1 いる 2 いない

調査にご協力いただき、ありがとうございました。

調査票は、同封の返信用封筒に入れて、投函してください。